



緑とゆとりを守り，各世代が支えあい  
心豊かに共生できるまち

# 洛西ニュータウン まちづくりビジョン

～ もっと もっと 魅力あるまちを目指して ～



平成18年11月  
洛西ニュータウンまちづくり検討会


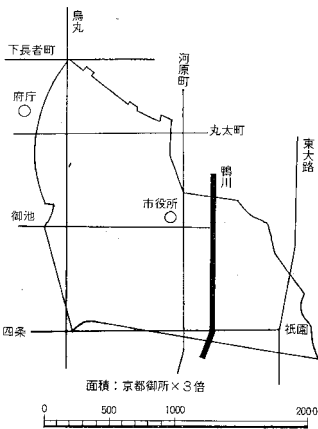
## 目 次

洛西ニュータウンとは	2
第1 まちづくりビジョンの策定について	10
1 策定の趣旨等	10
2 ビジョンの構成	11
第2 まちづくりビジョン策定の経過	13
第3 洛西ニュータウンの特色と課題	15
1 風景・まちなみ	15
2 住まい	16
3 まちの施設	17
4 生活の利便	19
5 生活の支援	21
6 交流	24
第4 洛西ニュータウンの目指すまちのすがた	27
第5 洛西ニュータウンのまちづくりの目標と考えられる方策	29
1 風景・まちなみ ～美しい風景や自然の豊かさを体感できるまち～	29
2 住まい ～豊かで自立した生活をすごせる住まい～	30
3 まちの施設 ～みんなで守り育てるまち～	31
4 生活の利便 ～便利で活気あふれるまち～	32
5 生活の支援 ～みんなで支え合いこころ豊かに安心してすごせるまち～	34
6 交流 ～元気に交流し魅力を発信するまち～	37
第6 まちづくりビジョンの推進に向けて	39
1 4つの戦略の推進	40
2 ビジョンの推進体制	42
おわりに	44
「洛西ニュータウンまちづくり検討会」委員名簿	45
洛西ニュータウンまちづくり検討会の議論の経過	46
洛西ニュータウンタウンミーティングの議論の経過	47

## 洛西ニュータウンとは

### 1 洛西ニュータウンの概要

洛西ニュータウンは、京都市が施行する新都市として1972年に建設が始まりました。事業手法、面積等は以下のとおりです。

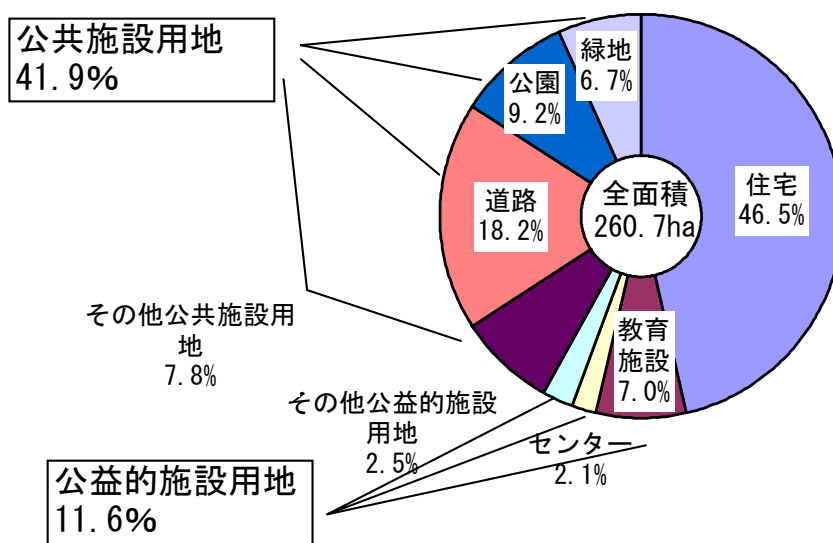
事業手法	新住宅市街地開発事業
面積	260.7ha
計画戸数	10,900戸
計画人口	40,900人
洛西ニュータウン計画の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 広域的整備計画とあわせて小畑川・支川を改修</li> <li>② 歴史的風土と緑豊かな住環境をつくる</li> <li>③ 商業・公益センターを中央部に集約したワンセンターシステムとし、桂川右岸地域発展の核とする</li> <li>④ 完全歩車分離。交通弱者へのきめ細かな配慮</li> <li>⑤ 高速鉄道導入までの間は、バスによる輸送力を整備</li> </ul>
洛西ニュータウンの位置・大きさ比較	<p>洛西ニュータウンの位置</p>  <p>洛西ニュータウンの大きさ比較</p>  <p>面積：京都朝所×3倍</p> <p>0 500 1000 2000</p>

## 2 全体計画図

○計画図



○土地利用計画の内訳

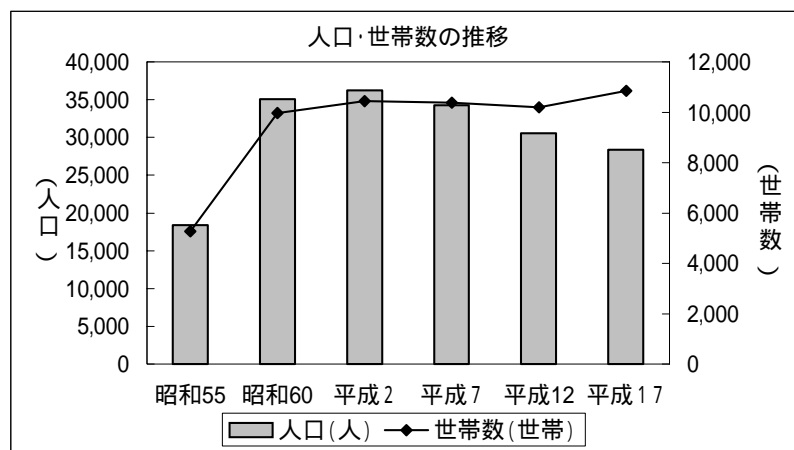


### 3 洛西ニュータウン開発の経緯

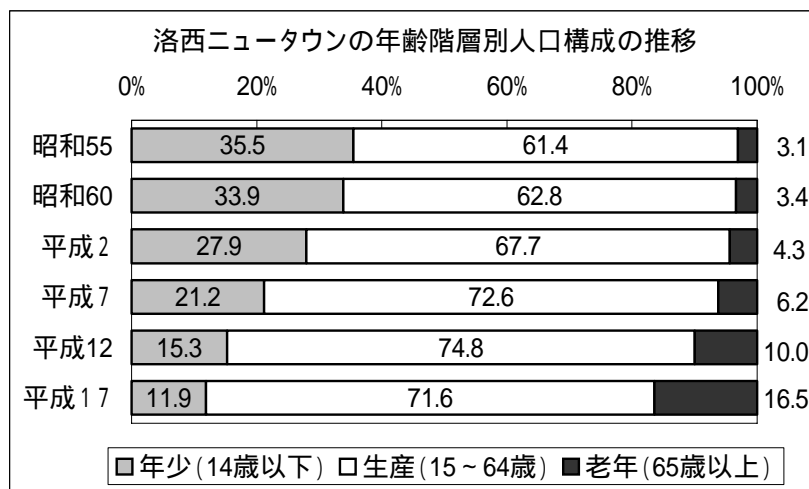
1969 (昭和 44 年)	洛西新住宅市街地開発事業の都市計画決定
1972 (昭和 47 年)	起工式
1976 (昭和 51 年)	入居開始
1977 (昭和 52 年)	新林小学校開校
1979 (昭和 54 年)	全道路開放
1980 (昭和 55 年)	境谷小学校開校
1981 (昭和 56 年)	福西小学校開校
1982 (昭和 57 年)	ラクセーヌオープン, 竹の里小学校開校
1987 (昭和 62 年)	洛西総合庁舎開設

### 4 洛西ニュータウンの人口・世帯数等

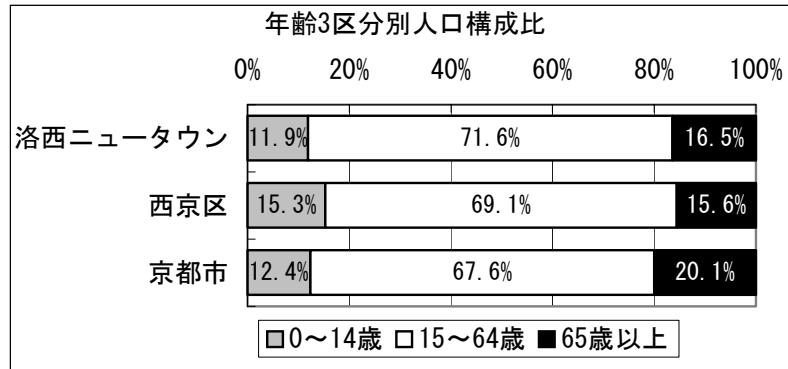
人口は、平成 2 年の 3.6 万人をピークに減少が続いています。少子高齢化の傾向が続いており、平成 17 年での年少人口比率は 11.9%、高齢者比率は 16.5%となっています。



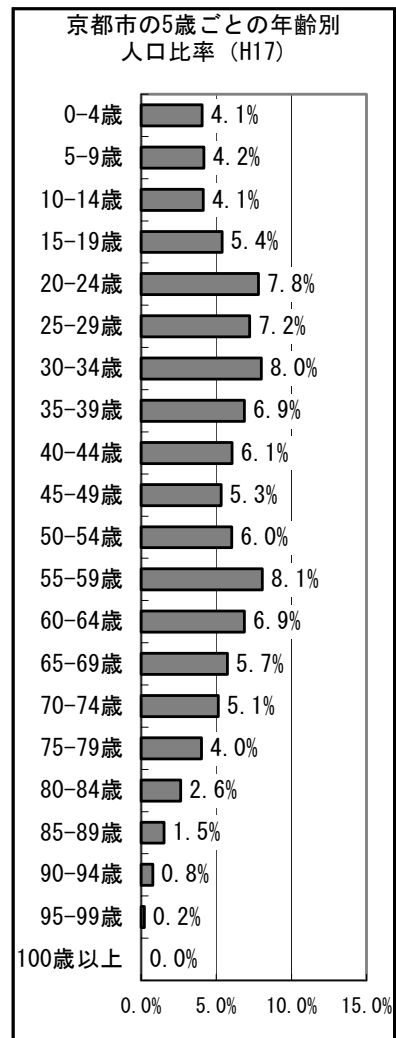
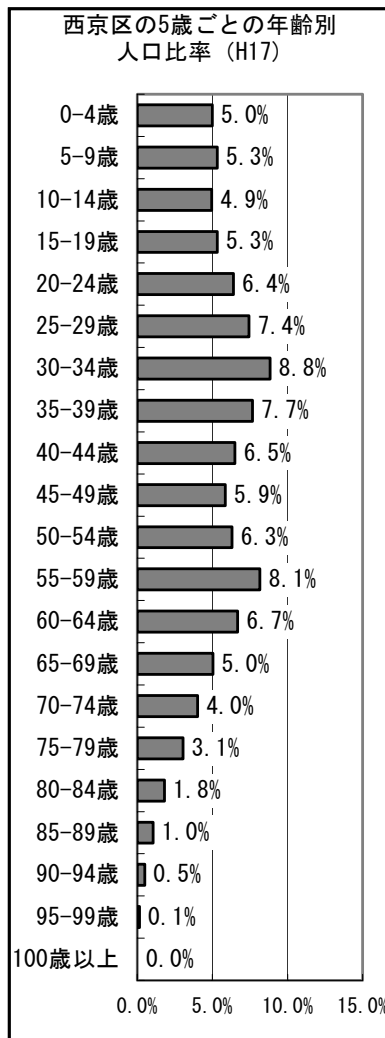
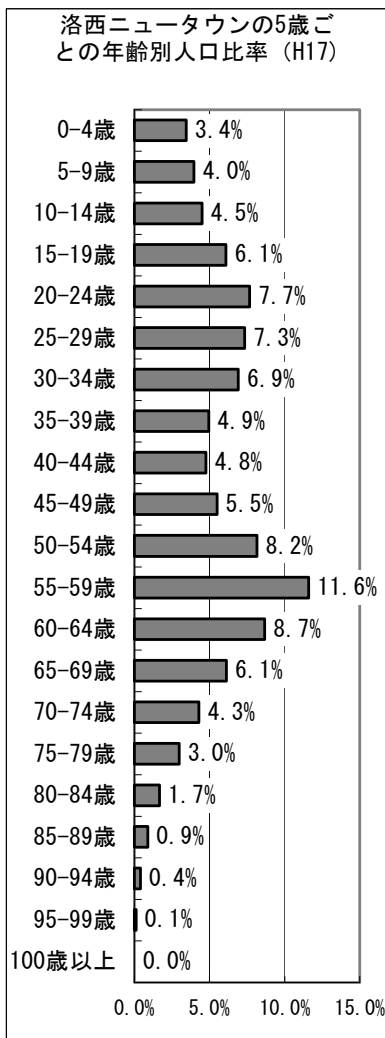
昭和 55～17 年：国勢調査，平成 17 年：住民基本台帳



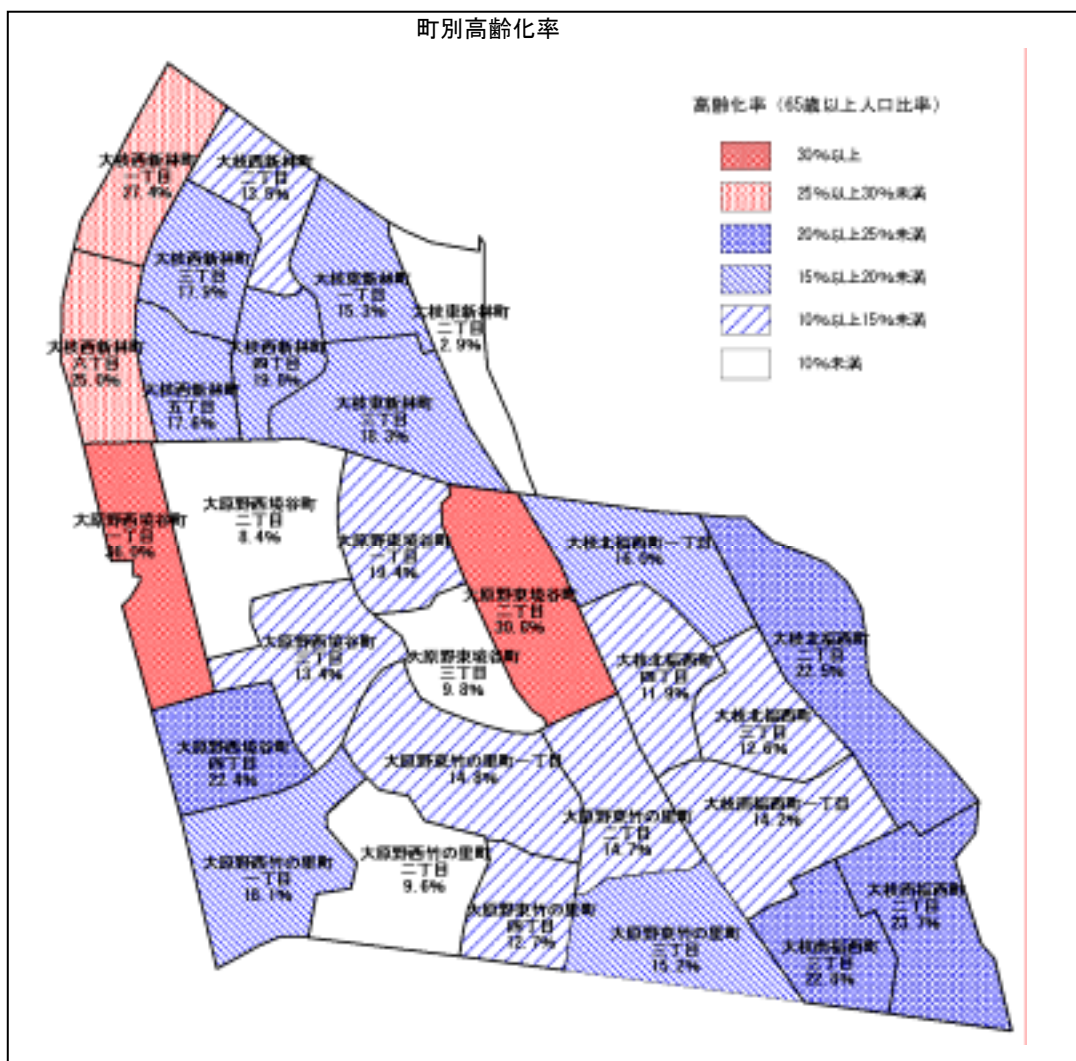
昭和 55～12 年：国勢調査，平成 17 年：住民基本台帳



京都市，西京区：人口推計（平成17年7月1日） 洛西ニュータウン：住民基本台帳



京都市，西京区：人口推計（平成17年7月1日） 洛西ニュータウン：住民基本台帳



平成 17 年住民基本台帳

### 洛西ニュータウンの小学校児童数の推移

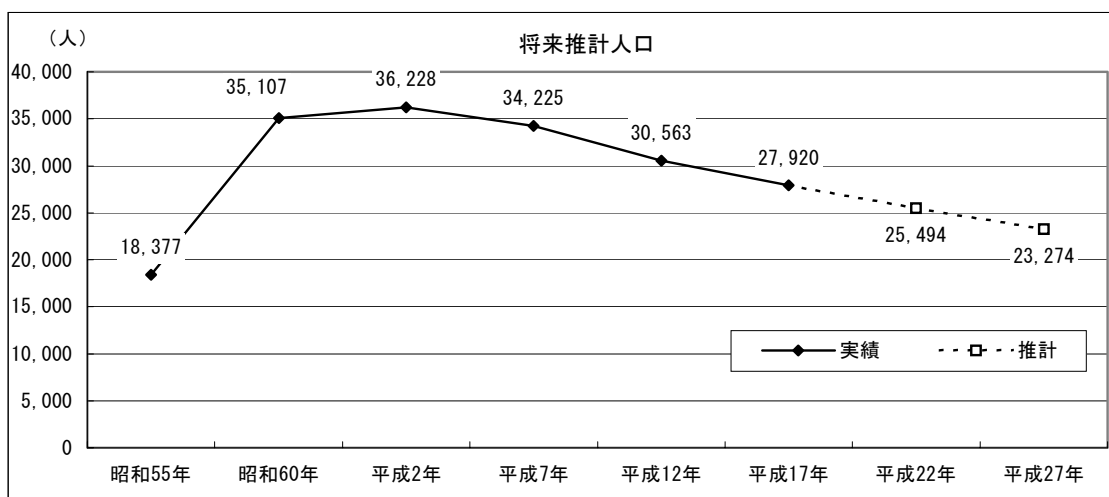
小学校名	最大児童数		平成 17 年度 児童数	増減
		時点		
新 林	1,373	昭和 58 年	499	△874
境 谷	1,310	昭和 63 年	351	△959
竹の里	1,269	平成 2 年	221	△1,048
福 西	1,733	昭和 56 年	394	△1,339

※ 1 新林小学校区域には、洛西ニュータウン以外の地域（西長町及び東長町）が含まれており、新林小学校の児童数には当該地域の児童が含まれている。

※ 2 竹の里地域は、竹の里小学校区域と洛西ニュータウン以外の小学校（上里小学校）区域に分かれており、竹の里小学校の児童数は竹の里地域の児童の一部である。

○人口の見通し：P7.8 のデータは、これまでの人口の推移を元に人口推計を行ったものであり、今後の社会状況等の変化等の要因を踏まえて作成したものではありません。

洛西ニュータウンの人口は、平成 2 年の 36,228 人をピークとして減少に転じ、平成 17 年には 27,920 人となりました。国勢調査に基づき、社会移動趨勢型人口推計（※）によって推計すると、平成 22 年には約 2.5 万人、平成 27 年には約 2.3 万人になる見通しです。



昭和 55～平成 17 年：国勢調査（平成 17 年は国勢調査の概数値による）

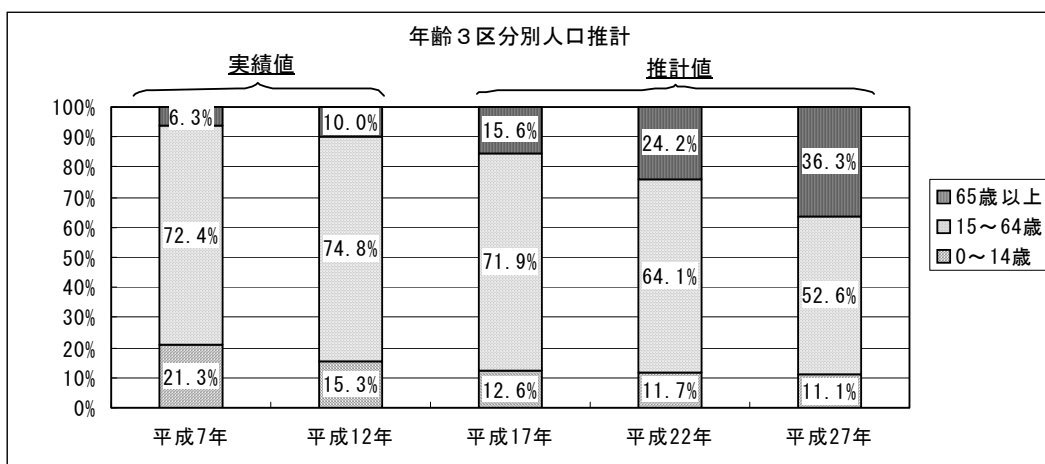
平成 22 年～27 年：平成 7、12 年の国勢調査に基づく社会移動趨勢型人口推計（※）

※社会移動趨勢型人口推計

経年的な増減の傾向を将来に延長して将来人口を推計するコーホート法のひとつで、人口の年齢構造や社会動態を反映した推計である。具体的には、人口の社会移動による各コーホート（男女別・5歳階級別の人口のまとまり）の推移率を将来とも同じと仮定して推計し、出生数は、出産年齢の女性人口の各5歳コーホート（15歳～50歳）に合計特殊出生率（地域補正を行ったもの）を乗じて求める。

○年齢別人口構成の見通し（平成 17 年は国勢調査の 5 歳階級別人口が未集計のため推定値による）

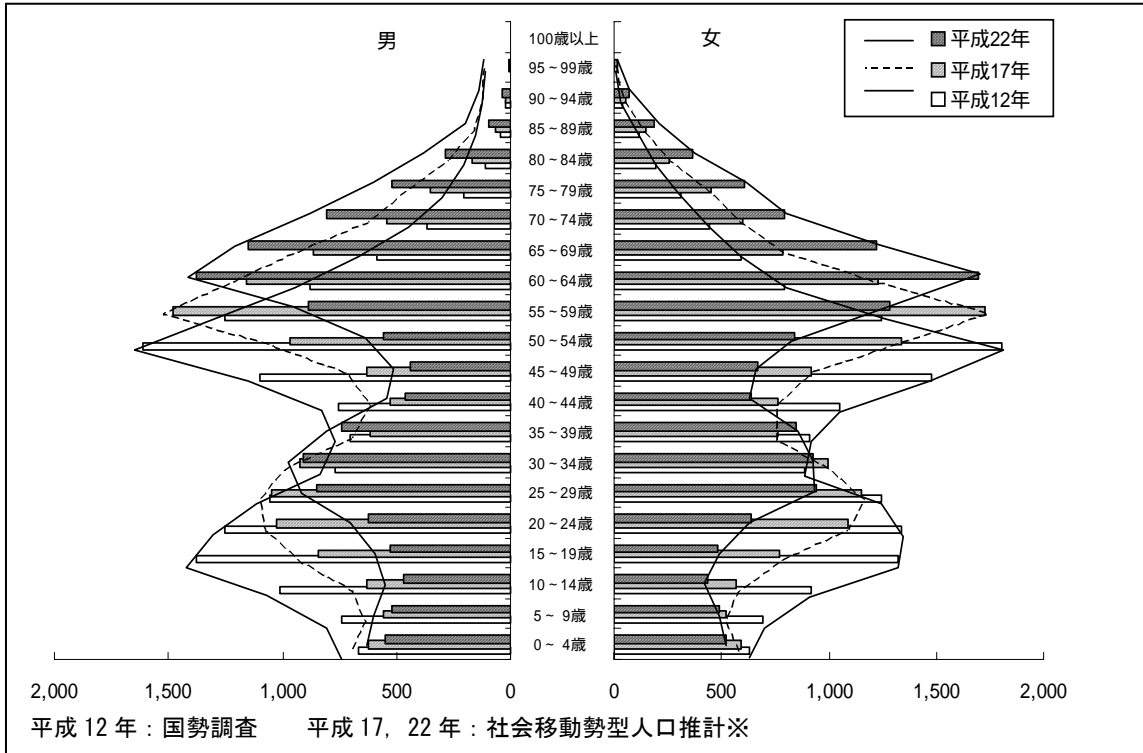
年齢別の人口構成を見ると、年少人口（0～14 歳）と生産年齢人口（15～64 歳）は減少することが予想されます。一方、老年人口（65 歳以上）は増加が見込まれ、平成 27 年には、平成 12 年の約 3.6 倍にあたる 36.3% になることが予想されます。



平成 7、平成 12 年：国勢調査 平成 17 年～27 年：社会移動趨勢型人口推計※



○男女5歳階級別人口推計（平成17年は国勢調査の5歳階級別人口が未集計のため推定値による）

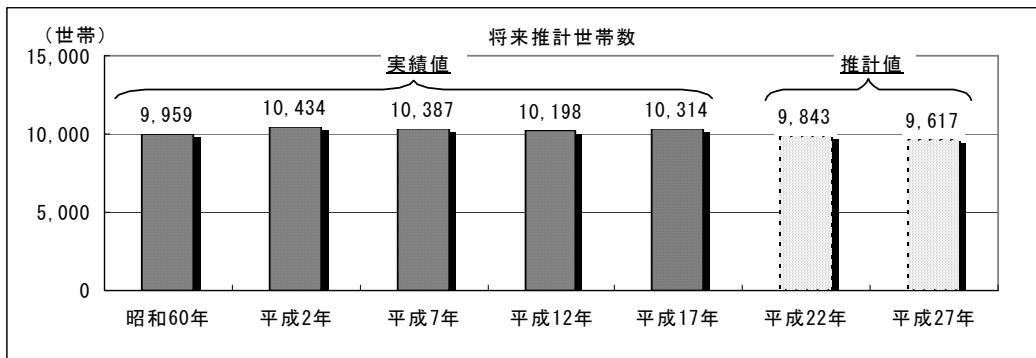


○世帯数の見通し（平成17年の人口及び世帯数は、国勢調査の概数値による）

1世帯あたりの平均人員（平均世帯人員）は、昭和60年には3.53人でしたが、平成17年には2.71人に減少しており、平成22年には2.59人、平成27年には2.42人になる見込みです。

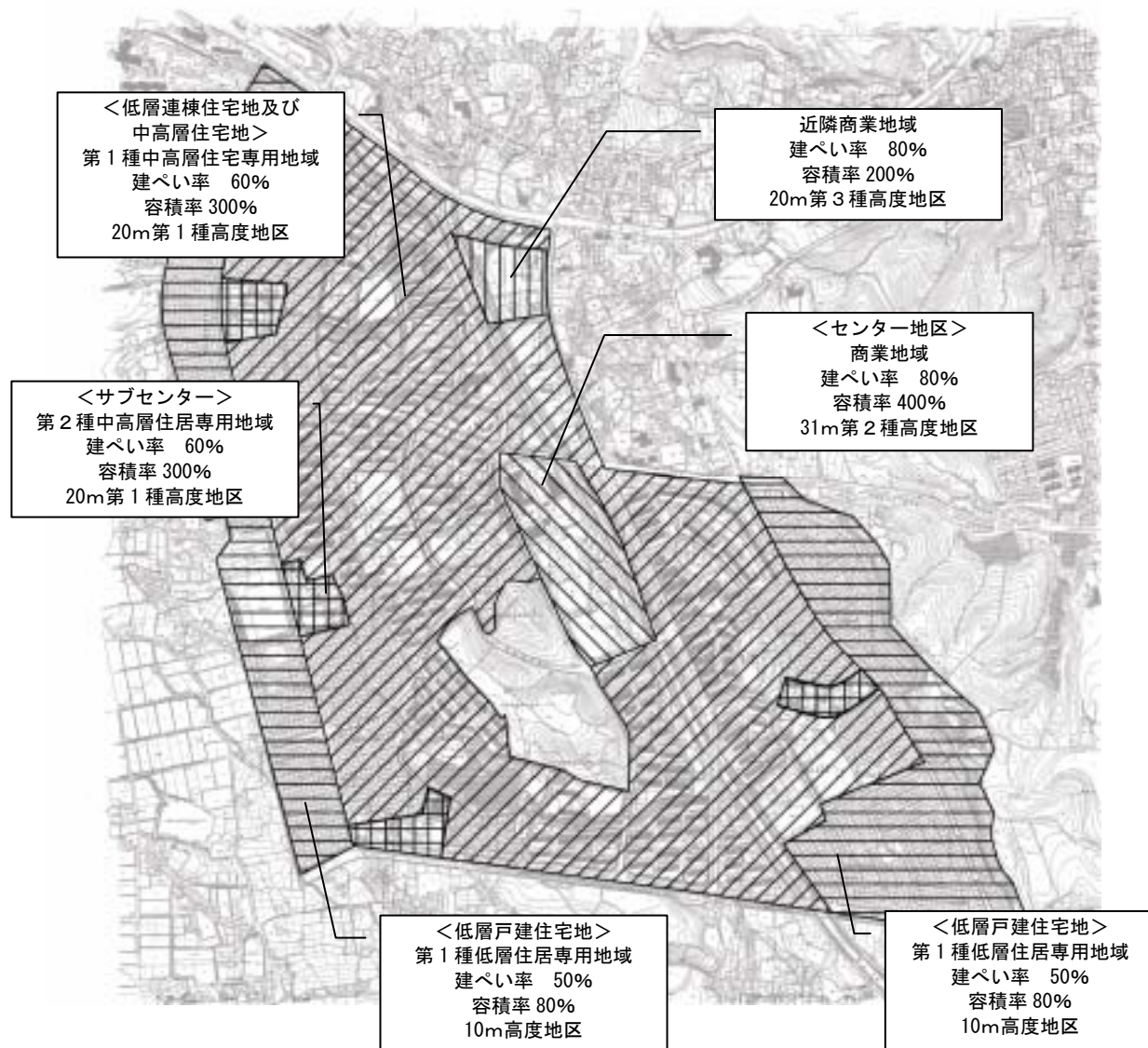
世帯数は、人口と同様に平成2年をピークとして減少傾向にありましたが、平成17年には若干の増加に転じました。しかし、人口減少に伴い平成22年には9,843世帯、平成27年には9,617世帯と減少していくことが予想されます。

	実績					推計	
	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
人口	35,107	36,228	34,225	30,563	27,920	25,494	23,274
平均世帯人員	3.53	3.47	3.29	3.00	2.71	2.59	2.42
世帯数	9,959	10,434	10,387	10,198	10,314	9,843	9,617



昭和60～平成17年：国勢調査　平成22年～27年の将来推計世帯数：平均世帯人員を昭和60～平成17年の推移をもとに近似曲線（指数）により推計し、人口推計結果とあわせて算出。

## 5 用途地域及び高度地区指定の状況



## 第1 まちづくりビジョンの策定について

### 1 策定の趣旨等

「洛西ニュータウン」は、住宅難の解消、乱開発の防止、秩序ある住宅地の供給を目的に、京都市で初めて大規模計画住宅団地として開発された260ヘクタールの広大なまちであり、豊かな緑の中で勾配屋根の低層住宅や中高層住宅等がゆとりを持って建ち並び、その中に約3万人の住民が生活されています。

しかし、まち開き（入居開始昭和51年）から30年を迎え、自然環境に調和した緑豊かなまちとして誕生した洛西ニュータウンも、新たなまちの転換点を迎えようとしています。先行して整備されていた大都市近郊の大規模なニュータウンにおいてはすでにまちの課題が顕在化しています。高齢者の急激な増加、少子化による若年世代の減少に伴うまちの活力の低下やコミュニティの崩壊、空家の増加、犯罪の増加、また、公益施設等の老朽化・陳腐化や生活を支えてきた近隣センター等の衰退により、利便性の低下など様々な課題を抱え、ニュータウン再生への具体的な取組が開始されています。

洛西ニュータウンも現状においては先行するニュータウンのような課題が顕著ではありませんが、人口や世帯数のシミュレーションからもわかるように、人口減少、急激な高齢化、若年層の一層の減少などが予測されており、課題が顕在化するの是目前のことと言えます。

このような状況を踏まえ、京都市により、平成17年8月に、地域住民や学識経験者、事業者、行政等による「洛西ニュータウンまちづくり検討会」が設置され、これからのまちづくりについて検討を行うこととなりました。

検討会では、「洛西ニュータウンタウンミーティング」（以下「タウンミーティング」という。）、団体等へのヒアリング（以下「ヒアリング」という。）、「洛西ニュータウンのまちを考えるアンケート」（以下「アンケート調査」という。）などを行いながら、洛西ニュータウンが抱える様々な課題を確認しつつ、議論を重ねてきました。

この「洛西ニュータウンまちづくりビジョン」（以下「ビジョン」という。）は、検討会での論議だけでなく、タウンミーティング、ヒアリング、アンケート調査等が出された様々な意見なども踏まえ、今後向かうべきまちの目標像や、その実現に向けて地域住民、地域に関わっている各種事業者及び行政等が協働して取り組む必要のある課題、方策などをとりまとめ、策定したものです。

なお、このビジョンは、今後の取組の起点となるものでありますが、その一方で、今後の更なる議論や洛西ニュータウンの魅力発信の素材にも活用されるものと考えています。

## 2 ビジョンの構成

ビジョンでは、まず「第3 洛西ニュータウンの特色と課題」において、検討会やタウンミーティング、アンケート調査、ヒアリングなどを通じて明らかになった様々なまちのよいところ、課題を整理し、分野ごとにまとめています。

「第4 洛西ニュータウンの目指すまちのすがた」においては、検討会やタウンミーティング、アンケート調査、ヒアリングで出されたまちの将来像を集約し、今後目指していくまちのすがたを示しています。

そして、「第5 洛西ニュータウンのまちづくりの目標と考えられる方策」では、第3の特色と課題に対応し、目指すまちのすがたの実現に向けて、まちの魅力に磨きをかけ、また、まちの課題に対応していくためのまちづくりの目標と考えられる方策を掲げています。

更に、「第6 まちづくりビジョンの推進に向けて」においては、第4で掲げた目指すまちのすがたの実現に向けて、「緑とゆとりの保全」や「世代間の支え合いと共生」を先導する4つの戦略とともに、ビジョンを推進していく体制を掲げています。

第4 洛西ニュータウンの目指すまちのすがた

緑とゆとりを守り、各世代が支えあい心豊かに共生できるまち

第6 まちづくりビジョンの推進に向けて

4つの戦略の推進

自然環境の保全と  
美しいまちなみづくり

子どもを育てる  
地域環境づくり

熟年世代が  
活躍できる地域づくり

身近な地域拠点と  
交通環境づくり

ビジョンの推進体制

活動のネットワークづくり

ビジョン推進のための体制  
づくりと活動支援

地域とともにあるまちづく  
りの推進

第3 洛西ニュータウン  
の特色と課題

風景・まちなみ

住まい

まちの施設

生活の利便

生活の支援

交流

第5 洛西ニュータウンのまちづくりの目標と考えられる方策

風景・まちなみ  
美しい風景や自然の豊かさを体感できるまち

住まい  
豊かで自立した生活をすごせる住まい

まちの施設  
みんなで守り育てるまち

生活の利便  
便利で活気あふれるまち

生活の支援  
みんなで支え合いこころ豊かに安心してすごせるまち

交流  
元気に交流し魅力を発信するまち

## 第2 まちづくりビジョン策定の経過

ビジョンの策定については、洛西ニュータウンにある4学区・地域（新林、境谷、福西、竹の里）の自治連合会や学識経験者、地域の事業者、公的住宅管理者及び京都市で構成する「洛西ニュータウンまちづくり検討会」（以下「検討会」という。）を設置し、これまで8回に亘って会議を開催し、鋭意検討を進めてきました。検討会には、毎回多くの方の傍聴があり、傍聴者からもアンケート形式で意見を集めました。

また、議論を深めていくに当たり、地域住民の幅広い意見を聞くため、まず自治連合会の役員の方々に対し、地域の課題や魅力について語ってもらう「プレヒアリング」を4学区・地域で行い、その後、5回に及ぶタウンミーティングを開催するとともに、平成17年12月には、地域住民の協力を得てアンケート調査を実施しました。

タウンミーティングについては、第1回を「洛西まち探検」（以下「まち探検」という。）、第2回を「洛西まち語り」（以下「まち語り」という。）、第3回を「新・洛西まち物語」（以下「まち物語」という。）、第4回を「洛西ニュータウンまちづくりビジョンを考える」（以下「ビジョンを考える」という。）と銘打ってまち歩きやワークショップ（小グループに分かれて意見を出し合い、皆で意見をまとめ、その成果を共有していく会議の方式）を開催し、回を追うごとに参加者も増え、様々な意見を集約することができました。

第5回では、それらの集大成である洛西ニュータウンまちづくりビジョン（案）を地域住民の方々に発表するとともに、ビジョンを実現するに当たり、地域で活躍されている方々からこれまでの経験や取組の中でヒントになること等をリレートークで発表、提案していただきました。また、平成18年8月には、ビジョン案についてのパブリックコメントを実施し、住民の方々に意見を募りました。

検討会とタウンミーティングは、次の図に示すように、検討会での議論の進捗に応じてタウンミーティングの内容を決定し、また、タウンミーティングで集められた意見が次の検討会で報告されるという関係にあり、検討会とタウンミーティングとを車の両輪として、相互に議論を深めていく形で進めていきました。

なお、タウンミーティングについては、その内容等を企画するため、公募した13名の企画委員に2名のアドバイザーを加えた「タウンミーティング企画委員会」を設置しました。この企画委員会で、地域住民への開催周知の方法、より多くの住民の参加を得て様々な意見やアイデアを集めるための工夫等を検討し、タウンミーティングの運営を行ってきました。

検討会やタウンミーティングの結果については、地域住民の関心を高めるため、「洛西ニュータウンまちづくり通信」を作成し、地域で回覧を行いました。

これらの取組に加え、若い世代や子育て世代のニーズを把握するため、洛西ニュータウンで実際に子育てしている人々や、子育てに関する相談に携る人へのヒアリングも行っています。

また、アンケート調査については、地域住民の方3,000名を無作為抽出し、郵送による調査票の配布・回収を行い、1,361名の方から回答（回収率45.4%）を得ることができました。調査結果は、地域住民の生活状況、まちづくり等に関する意識や意向などを把握する上で貴重なものとなり、検討会等での議論において極めて重要な資料として活用することができました。

◆まちづくり検討会の取組

■第1回まちづくり検討会 H17. 8. 25  
 ○調査の目的・進め方の確認  
 ○地域の現況把握  
 ○他のニュータウンとの比較検討

■第2回まちづくり検討会 H17. 10. 3  
 ○プレアリングの中間報告  
 ○他のニュータウンの取組について  
 ○タウンミーティングの企画について

■第3回まちづくり検討会 H18. 1. 24  
 ○アンケート、現況調査、まち探検の報告  
 ○課題の確認

■第4回まちづくり検討会 H18. 3. 22  
 ○まちづくりテーマ案の検討  
 ○まちの将来像の検討

■第5回まちづくり検討会 H18. 5. 30  
 ○まちづくりビジョン（素案）の作成  
 <まちづくりの方針等>

■第6回まちづくり検討会 H18. 7. 24  
 ○まちづくりビジョン（案）の作成  
 <具体的な方策を盛り込んだもの>

○まちづくりビジョン（案）に対し  
 パブリックコメントの実施  
 H18. 8. 12~9. 2

■第7回まちづくり検討会 H18. 9. 19  
 ○まちづくりビジョンの検討

■第8回まちづくり検討会 H18. 11. 6  
 ○まちづくりビジョンの検討

まちづくりビジョン策定

タウンミーティング等の取組

プレタウンミーティング H17. 9~10  
 洛西ニュータウンのまちづくりを考えるための  
 「プレヒアリング」（自治連合会役員対象）

第1回タウンミーティング H17. 12. 10  
 『洛西まち探検』

第1回・第2回タウンミーティング企画委員会

第2回タウンミーティング H18. 2. 5  
 『洛西まち語り』

第3回タウンミーティング企画委員会

第3回タウンミーティング H18. 3. 5  
 『新・洛西まち物語』

第4回~第7回タウンミーティング企画委員会

第4回タウンミーティング H18. 6. 18  
 『洛西ニュータウンまちづくりビジョンを考える』

子育て世代へのヒアリング H18. 6~7

第8,9回タウンミーティング企画委員会

第5回タウンミーティング H18. 8. 12  
 『洛西ニュータウンまちづくりフォーラム』  
 ～もっともっと魅力あるまちに～  
 ○まちづくりビジョン（案）の住民への説明

◎住民・行政・事業者のパートナー  
 シップによるビジョンの推進

### 第3 洛西ニュータウンの特色と課題

ここでは、今までの検討会やタウンミーティング、ヒアリング、アンケート調査などを通じて明らかになったまちの特色と課題を整理し、まとめることとします。

洛西ニュータウンでは未だ問題の顕在化・先鋭化が顕著には進んでおらず、まちの未来に向けた取組を幅広い観点で検討していくため、特色と課題は、洛西ニュータウン固有のもの、他のニュータウンや他の地域にも共通するものなど、幅広く捉えています。

#### 1 風景・まちなみ

##### (1) 西山等の身近な自然や風景、豊かな水辺、緑豊かなまちに対する評価が高い

洛西ニュータウンは、西山のふもとに建設されたまちです。ニュータウンの周辺には、大枝の柿畑、大原野の水田などが広がっており、まちの中央に流れる小畑川には、子どもが遊べる場所が設けられ、夏には上流でホテルが見られます。大蛇ヶ池等の水辺空間も身近にあり、また中央緑地には竹藪が広がっています。

さらに、ニュータウン内の道路には様々な街路樹が育ち、各住区には大小様々な公園が設けられ、緑豊かな空間が広がっています。

まち探検では、全てのグループで、西山の美しさをまちの魅力とする意見が出ており、またアンケート調査においても、住環境として、緑や自然、風景についての評価が大変高く、住みたい理由として、自然環境に満足していることを理由とする比率が高い状況となっています。また、洛西ニュータウンの将来像としても緑豊かで潤いのあるまちを望む意見が多くなっています。

##### (2) 世代を超えてまちのゆとり、まちなみに対する評価が高い

洛西ニュータウンは、計画的に建設されたまちであり、低層の建物だけでなく中高層の建物についても、棟と棟との間隔や建物廻りに十分なゆとりを持って建てられており、住戸の採光や通風に配慮されています。また、建物の配置だけではなく、道路や緑道、公園といった公共空間が十分に確保され、様々な場所で空間の広がりを感じられます。洛西ニュータウンの建設計画では、景観保全の視点か

参考資料・参照ページ等



大蛇ヶ池から西山をのぞむ

参考資料 P3 アンケート調査  
「住環境等の満足度」

参考資料 P6 アンケート調査  
「住みたい理由」

参考資料 P14 アンケート調査  
「洛西ニュータウンの将来像」



洛西中央通



ら勾配屋根を基本としており、幹線道路では無電柱化が図られるなど、多くの工夫が取り入れられています。

このような建物の高さやまちなみの景観の良さや採光、通風の確保に対する住民の満足度はたいへん高く、また、まちのゆとりある空間に対し、若い世代から高齢世代までが魅力を感じており、住み続けたい理由として高い評価を受けています。

参考資料 P 2 アンケート調査  
「住居の満足度」

参考資料 P 3 アンケート調査  
「住環境の満足度」

参考資料 P 6, 7 アンケート調査  
「住み続けたい理由」

### (3) 建物の再生が始まり、まちなみに変化しつつある

入居開始から 30 年が経過する中で、建物の老朽化が進み、戸建住宅などで建て替えや増築が始まっています。また、少子・高齢化や社会ニーズの変化により、施設需要も変化しており、公益的施設がマンションに、また幼稚園がスーパーに建て替わるなど、計画に沿って整備された建物の跡地に計画とは異なる用途の建物が建築されるといった土地利用の再編が始まっています。

このように、まち開きから 30 年が経過して、建物の用途やボリュームが変化することによって、まちなみも変わってきており、タウンミーティングでは、新たなまちなみのルールを求める声が挙がっています。

## 2 住まい

### (1) 戸建住宅や集合住宅の老朽化が進んでいる

洛西ニュータウンでは、分譲住宅、賃貸住宅、戸建住宅、テラス住宅及び共同住宅など、所有関係や住宅形式において多様な住宅が計画的に建設、供給されてきました。

しかし、建設当初の住宅では築後 30 年近くを迎えており、建物の老朽化が徐々に進んでいます。また、タウンミーティング等においては、公的住宅等については、維持・修繕等の要望も出されています。加えて、家族構成や住宅設備、住宅ニーズの変化に伴う住宅の再生も課題となりつつあります。

アンケート調査では、建物のきれいさや痛みの程度について不満とする意見が満足を上回り、転居したい理由の中で、特に 20 歳代及び 30 歳代において、住宅の広さや設備への不満を理由とする比率が高い結果となっています。

参考資料 P 1 5  
「建設年代のデータ」

参考資料 P 2 アンケート調査  
「住居の満足度」

参考資料 P 8 アンケート調査  
「転居したい理由」

このように、洛西ニュータウン内の多様な住宅で様々な課題を抱えており、個々の住宅の特性を考慮した対応が求められています。

## (2) 住まいの安心安全に対する関心が高まっている

タウンミーティングでは、5階建ての中層住宅にエレベーターがないことによる生活上の不安の声が出されており、また、阪神淡路大震災時の被害の記憶から、建物の耐震性に対する関心が高いことがうかがえました。

アンケート調査では、特に公的住宅の住まい内部のバリアフリー化ができていないことを課題ととらえる比率が高くなっており、また、同調査では、60歳以上で、「このまま住み続けたい」と「当分の間は住み続けたい」という意見が合わせて8割にのぼっております。

今後、更に高齢化が進む将来を考えれば、住み慣れた住まいで自立し、安心して暮らせるための対応を求める声が大きくなっていくものと予想されます。

参考資料 P2 アンケート調査  
「住居の満足度」

参考資料 P6 アンケート調査  
「今後の居留意向」

## 3 まちの施設

### (1) 公園や道路について現在の利用に応じて再検討すべき点が見られる

洛西ニュータウンは、自然・歴史資源や地形を有効に利用して計画的に公園・緑地が配置され、現在は緑豊かな住宅地となっています。また、歩車分離を原則に、歩道、緑道と公園をつなぐ安全な歩行者空間ネットワークが形成されています。

アンケート調査においても、まちなかの緑豊かなうらおいのある住環境については非常に高い評価を得ています。

しかし、タウンミーティングでは、まちの建設から30年を迎えて公園や歩道、緑道が老朽化しており、適切な維持管理を望む声が多く出されています。また、子どもが減少し、高齢者が増えている中で、「公園を高齢者が憩える場所に」という声があるなど、時代を経て利用者のニーズも変化しており、多様な世代が利用できる公園への再整備が求められています。

P3 全体計画図

参考資料 P3 アンケート調査  
「住環境の満足度」



大蛇ヶ池

また、車両優先から歩行者優先の道づくりを望む意見、車いすやベビーカーでも通りやすい道になるようにという意見も多く出されています。

## (2) まちなかに見られるバリアの除去が必要となっている

洛西ニュータウンでは、今後急速に高齢化していくことが予想されます。アンケート調査では、まち中の坂道やバリアに対する不満はまだ少ない状況ですが、丘陵地に建設された住宅地であり、まちには起伏が多く、まちに存在するバリアが高齢者の日々の活動に及ぼす影響が大きくなっていくことが懸念される場所です。

また、洛西ニュータウンの近隣には、「洛西ふれあいの里」などの福祉ゾーンがあり、障害のある方が住みよいまちという視点も重要です。

住み慣れたまちで自立して、安心して暮らしたいとの思いの高まりに対応して、まちのバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化が求められています。

## (3) まちの美化や街路樹、公園の緑などの適切な緑の管理が必要である

洛西ニュータウンは、洛西中央緑地を含め、全体の約20%が緑地として整備されており、アンケート調査等でも緑豊かな環境に対する評価が大変高く、また、これからも緑豊かで潤いのあるまちであることを望む意見が多い結果となっています。一方で、道路や河川、公園の管理問題、樹木の手入れや落ち葉の処理、公園や道路のゴミなどの課題が指摘されており、特にヒアリングでは、せっかくの洛西ニュータウンの魅力となる緑や緑道が、管理が不十分なために近寄りたがたい雰囲気をつくっているという意見も出されています。

最近では、自治会による美化活動への取組や、環境保全等に関わる市民活動も活発に行われており、自分たちでできる範囲は自分たちで管理するとの意見も多く出されています。まちの魅力として高い評価を受けている豊かな緑について、これまでのような公共機関側だけの管理ではなく、住民と公共機関の協働による美化活動や緑の維持管理が、



幹線道路の様子

参考資料 P12 アンケート調査  
「ニュータウンの課題」



竹林公園への階段

参考資料 P3 アンケート調査  
「住環境の満足度」

参考資料 P14 アンケート調査  
「洛西ニュータウンの将来像」



落ち葉でいっぱいになった歩道

今後ますます進むことが期待されます。

## 4 生活の利便

### (1) 日常の買い物の利便性が低下している

洛西ニュータウンでは、商業・サービス施設、公共・公益的な施設及びターミナル施設からなるまちのサービス拠点として、まちの中央にタウンセンターが、また各住区にはサブセンターが配置されており、日常の買い物や生活サービスを提供する店舗と会館などのコミュニティ施設が設けられています。

サブセンターは、設立当初以来、その役割を十分に果たしてきましたが、近年は、消費者の価値観やライフスタイルの変化に加え、施設の老朽化や品揃えの不足等サブセンター自身の問題により、利用者数が伸び悩み、キーテナントのスーパーが相次いで撤退しており、また個店でも空き店舗が見られるなど、結果として日常の買い物の利便性が低下しているとの声が多く出されています。また、ニュータウン内の商業施設が衰退していることを課題とする意見も多くなっています。

### (2) サブセンター等の地区支援機能の再編期を迎えている

洛西ニュータウンでは、まちの中央に総合病院やタウンセンターが設けられ、タウンセンターには総合庁舎や公共公益施設が入っています。また各住区には教育施設、医療施設、サブセンター等が配置されています。

タウンセンターは、今後も洛西地域の商業・業務、にぎわいの拠点としての機能を維持していくことが望まれています。

また、サブセンターは、商業・サービス機能が低下する一方、コミュニティ施設等においても利用者が高齢化しており、利用面での課題が指摘されています。

今後、高齢化の進展に伴って、徒歩圏内にあるコミュニティ拠点としてのサブセンターの役割は一層高まっていくことが予想されます。サブセンターは地域の生活利便機能としての役割だけでなく、住民のコミュニティの場、生

P3 全体計画図



サブセンター

参考資料 P1 アンケート調査  
「日常の買い物」

参考資料 P12 アンケート調査  
「洛西ニュータウンの課題」



タウンセンター

涯学習や市民活動の場、ボランティア活動の拠点として、住民の豊かな生活を支援する施設としての役割を検討する段階を迎えています。

### (3) 交通の利便性の向上を求める声がある

洛西ニュータウンの居住者には、将来地下鉄が整備されることを期待して入居した方も多いところですが、地下鉄の洛西ニュータウンへの西伸は未だ実現しておらず、現在のまの公共交通はバス輸送となっています。バス路線は、洛西バスターミナルと阪急電車及びJR駅等の最寄駅や市内中心部とをつなぐ多様な路線が整備されており、また、近年新たなバス事業者も参入し、利便性は向上しています。

しかし、タウンミーティングなどの意見では、バス交通について、「大変便利である」との意見がある一方で、「地域によっては不便である」、「桂駅からの深夜のバスがない」などの声も出されています。また、バスルートの再編やバス事業者間の連携を求める意見も出されています。さらに、アンケート調査では、転居したい理由として通勤や通学の便の悪さが高い比率となっており、特に若い世代で交通の便が悪いという評価となっています。また、交通の便が悪いことをニュータウンの課題として指摘する人も多くいます。

今後は、今のバス交通の利便性を保持しつつ、洛西ニュータウン全体でバランスのとれたバス交通網の再編等の工夫が必要となっています。

### (4) 交通環境についてさらに検討すべきという意見が多い

タウンミーティングやアンケート調査では、駐車場の不足や違法駐車を指摘する声が多いと出されています。

また、歩道や緑道での自転車のスピードの出し過ぎや緑道のバイク走行など、交通モラルに関わる問題や、通過交通が多いといった不満の声、排気ガスの影響を懸念する声も多く出されています。

アンケート調査でも、マイカー優先よりも公共交通や徒歩、自転車が利用しやすいまちを望む意見が多い状況とな



ニュータウン内を走るバス

参考資料 P 1 6 , 1 7  
「バス路線図」

参考資料 P 8 アンケート調査  
「転居したい理由」

参考資料 P 1 2 アンケート調査  
「洛西ニュータウンの課題」

参考資料 P 2 アンケート調査  
「住居の満足度」

参考資料 P 1 2 アンケート調査  
「洛西ニュータウンの課題」

参考資料 P 1 4 アンケート調査  
「洛西ニュータウンの将来像」

っており、高齢社会の到来や地球環境の保全を考慮して、自家用車に依存した交通体系から、公共交通を利用した効率的かつ住民にも環境にもやさしい交通への転換、住民の交通モラルの向上などについて、住民が主体となって考える時期を迎えています。

## 5 生活の支援

### (1) 子どもが減少してまちの活気が低下している

洛西ニュータウンの人口は、平成2年の3.6万人をピークに減少に転じ、世帯数も平成2年以降微減が続いています。

P4「人口・世帯数の推移」

また、年齢階層別構成の15歳未満の人口比は11.9%（平成17年10月 住民基本台帳）であり、昭和55年（国勢調査）と平成17年で比較すると1/3に減少しており、平成17年の京都市全体の人口比12.4%（平成17年7月人口推計）や西京区の15.3%（平成17年7月人口推計）を下回っています。

P4「洛西ニュータウンの年齢階層別人口構成の推移」

さらに、洛西ニュータウン内の小学校の児童数は、最も多かった時期の児童数と比較すると、各小学校とも1,000人程度減少しており、1/4から1/3にまで減少しています。また、現在では1学年1クラスという学校もある状況となっています。

P6「洛西ニュータウンの小学校児童数の推移」

このような子どもの減少傾向を反映して、「まちなかで子どもの姿が見られない」、「子どもが減少して町内の活気が薄れている」などの意見が出されています。

### (2) 子育て環境について子育て世代のニーズを把握する必要がある

西京区も子どもの減少傾向にはありますが、京都市内で最も出生率が高い区であり、子育てを支える様々な活動に多くの人が参加しています。

参考資料 P16  
「出生率データ」

アンケート調査では、子育てする環境として6割の人が満足しており、ヒアリングでの声としても、洛西ニュータウンは緑が多く、子どもを育てやすいとの声が挙がっています。

参考資料 P3 アンケート調査  
「住環境等の満足度」

参考資料 P5 アンケート調査  
「住環境等の満足度」

しかし、年齢階層別にみた場合、50歳代以上に比べて、

それ以下の若い子育て世代においては、子育て環境への評価は低く、転居したい理由として、20歳代では子育て環境に対する不満が高い比率となっています。

子育て支援施設でのヒアリングでは、洛西ニュータウン内には、公営住宅が集中し、若年層の転出入も激しいため、地域コミュニティから孤立する中で育児不安等を抱えている人もおり、子育て支援を必要としている世帯が増加しているとの意見がありました。また、子育て世代へのヒアリングの結果、急なときに子どもをみてもらえる制度や支援がないことに対する不安や、働きながら子どもを育てていくための支援体制が不十分だという意見が出されました。

現在、地域で支えあう子育て支援の一環として、民生児童委員協議会や社会福祉協議会が中心となった「子育てサロン」の取組が活発化しつつあります。また、平成17年度に行政や社会福祉協議会、民生児童委員会で「西京子育て支援ネットワーク連絡会」を立ち上げ、情報の提供・交換や地域での子育て支援活動の連携強化が進められています。

### (3) 急速な高齢化に伴って様々な問題が顕在化している

洛西ニュータウンの高齢化率は、平成17年10月（住民基本台帳）で、16.5%となっており、京都市全体の20.1%（平成17年7月人口推計）と比較するとまだ低い状況です。しかし、平成7年から平成17年の高齢者数の推移をみると、増加率は全市平均の1.8倍に達しています。各地のニュータウンと同様に、高齢化のスピードは著しく、高齢社会への対応は急務の課題と言えます。

タウンミーティングでは、独居老人の増加、孤独死の発生、引きこもり高齢者の増加などの問題や、高齢者の交流の場の不足、高齢者の日常の買い物に関する問題などが指摘されています。また、アンケート調査では、高齢化の進展への対応に大きな関心が寄せられている中で、特に、50歳代以上で高齢者福祉施設や障害者福祉施設に対する満足度が低く、高齢期の生活に不安を感じている人が多いという結果となっています。

参考資料 P9 アンケート調査  
「転居したい理由」

P4, 5 「洛西ニュータウンの年齢階層別人口構成の推移」

参考資料 P12 アンケート調査  
「洛西ニュータウンの課題」

参考資料 P3 アンケート調査  
「住環境等の満足度」

また、洛西ニュータウンでも、間もなく団塊の世代が一斉に定年を迎えて地域社会に回帰してくる時期を迎えることとなります。ある意味ではこのまちもベッドタウンから全日制のまちへと移り変わっていくと言えます。

#### (4) まちの安心安全に対する関心が高まっている

近年、子どもを取り巻く凶悪な犯罪が多発しており、身近なところでの犯罪発生件数も増加しています。また、地震等による災害発生への不安やその際の安全確保に関心が高まっています。

タウンミーティングでは「街灯が少ない」、「空き巣や街頭犯罪が多い」、「車上荒らしが多い」、「災害時の避難場所が分からない」などの意見が出されています。アンケート調査でも、まちの風紀・治安に対する評価は低く、特に40歳代以下の子育て世代での評価が低いという結果になっています。

このような状況に対して、住民が共に助け合う仕組みづくりや住民と行政の連携による取組により、安心安全なまちをめざすべきとの意見が多く見られます。

西京区では、「なくそう犯罪 みんなで進める西京安心安全のまちづくり」の取組により、防犯意識の向上や地域による防犯活動が展開されています。今後、これらの活動を更に推進し、安心安全を守る大きな力となる「地域の総合的な安心安全ネット」を形成していく必要があります。

#### (5) 近所付き合いが希薄になりつつあると感じる人が多い

洛西ニュータウンは計画的に作られた住宅地であり、地縁や血縁関係を持たない人々が住宅の建設と合わせて入居し、集住したまちです。これまで、子育て期の母親たちが中心となってニュータウン独自のコミュニティを形成してきましたが、現在では、親世代だけの世帯が増え、地域コミュニティの年齢構成に偏りがあるという状況が生じています。

また、アンケート調査による近所付き合いの程度では、昭和57年に行われた調査と比べて付き合いが希薄になっていることがうかがえ、付き合いの希薄化を課題として

P5「洛西ニュータウンの5歳ごとの年齢区分別人口」

参考資料 P3 アンケート調査  
「住環境等の満足度」

参考資料 P12 アンケート調査  
「洛西ニュータウンの課題」

P6「町別高齢化率」

参考資料 P10 アンケート調査  
「隣近所の付き合いの程度」



とらえる人も多いという結果になっています。特に、公的住宅の賃貸住宅においては、入居者間の交流は更に希薄と なっていますが、入居者の高齢化や転出入による入居者の 入れ替わりが原因の一つであると考えられます。

また、近所付き合いを嫌う世代など多様な価値観を持った 居住者の増加なども、付き合いの希薄化の一因と考えられ、 近所同士でも顔を合わさないことへの不安感が大きくなっ ているとの声があります。

## **(6) 自治会活動の活性化が求められている**

洛西ニュータウンには新林、境谷、福西、竹の里の4つ の自治連合会があり、それぞれに自治会と町内会が組織さ れています。各自治連の多方面かつ多様な活動については、 タウンミーティングでも報告されているところです。

その一方で、ヒアリングやタウンミーティングによると、 自治会活動に関して、自治会の加入率の低下、自治会活動 の低下や活動への参加者の減少、また、役員を引き受ける ことに消極的な傾向や役員の高齢化、地域によっては集ま る場所がないこと、更に、学区の範囲の定め方などの意見 も出されています。アンケート調査では、自治会の加入率 が40歳前の若い世代でそれ以降の世代と比較して相当 低く、住宅の種別によっても加入率に差が生じています。

また、自治会活動に対して、参加、協力の意向を持つ割 合は5割弱、仕事等による時間の制約により協力できない という割合は2割弱、参加の意向のない割合も2割弱とい う結果となっています。

今後の高齢化の進展やまちの安心安全への関心の高ま りなどを考えれば、住民の参加促進により、互いに支えあ い、見守りあう自治会活動の維持・充実は、より一層重要 性が高まっていくものと考えられます。

参考資料 P11 アンケート調査  
「自治会の加入状況」

参考資料 P11 アンケート調査  
「自治会活動への考え方」

## **6 交流**

### **(1) 洛西ニュータウン内の市民活動は活発に行われている**

洛西ニュータウンでは、自治連合会等を中心とした福祉 活動、環境保全活動、文化・芸術活動、子ども育成活動、

交通安全，地域の安心安全活動などの他にも，NPO等による様々な市民活動が活発に行われています。

また，西京区では，平成16年からは，西京区基本計画に基づいて「西山文化」創造区民会議の手で西京塾が開講されており，公募で塾生を募集し，まちづくり活動に携わる人材育成に取り組まれています。

## **(2) 生涯学習・文化活動の活性化，情報発信が求められている**

アンケートによると，生涯学習や文化活動の活発さについての満足度が低くなっており，ニュータウンを基盤に展開している市民活動については，一般の住民にその活動が見えるように，また，活動に関する情報交換等が進むように，情報発信を更に進めてほしいといった要望，活動のためのスペースや気軽に活動の交流ができる機会などをもっと増やしてほしいなどの要望が出ています。

西京区では，「西京まち・ひと・情報データベース」のホームページで開設し，区域を対象に展開されているまちづくり活動の情報を集めて情報発信するなど，地域のまちづくり活動の活性化に取り組まれています。

参考資料 P3 アンケート調査  
「住環境等の満足度」

## **(3) 住んでいる人が認めるまちの魅力を継承・発展させる必要がある**

アンケート調査では，洛西ニュータウンに住み続けたいという意向を持つ人が7割を超えており，年齢が上がるほどその意向を持つ人の比率が高くなっています。一方，転居を考えている人では，洛西ニュータウン内での転居よりも西京区内の他地域を転居先に選ぶ人の方が多いという結果となっています。

まち物語では，「多世代が交流するまち」をキーワードとして，「子ども世代にも住んでほしい」，「親世代も一緒に住めたら」との思いが語られました。

洛西ニュータウンがこれからも元気なまちであるためには，今住んでいる人がこれからも心地よく住めるまちである必要があります。そのためには，まちの魅力を確認し，継承・発展させる必要があります。自治会連合会へのヒア

参考資料 P6 アンケート調査  
「今後の居留意向」

参考資料 P7 アンケート調査  
「考えている転居先」

リングでは、世代を超えて伝える「まちの祭り」のように、まちへの愛着を高めることにつながるような、まちの拠りどころが必要だとの意見も出されました。

#### **(4) 他の地域の人にまちの魅力を発信する必要がある**

洛西ニュータウンでは、同時期に同世代が多数入居しているために急速に高齢化が進み、人口構成に偏りが生まれています。各世代が支えあって共生するまちであるためには、今住んでいる人が継続して居住するとともに、多様な世代、特に若い世代の世帯の入居を推進することが必要です。そのためには、他の地域の人々が「洛西のまちに住みたい」と思えるような魅力づくりと、そのようなまちの魅力の情報を発信することが必要であると言えます。

#### **(5) 周辺地域との連携やネットワークづくりが求められる**

新林区にはニュータウン区域外の西長町や東長町も含まれており、区域を超えて人のつながりや自治会活動が展開されています。また、竹の里地域は二つの小学校、二つの中学校の通学区を擁しています。洛西ニュータウンは大枝・大原野地域の丘陵地に計画的に建設された住宅地ですが、まちの住民は周辺の自然を楽しみ、周辺の住民はまちの施設を利用するというように、周辺の集落と開発された住宅団地には様々なつながりも形成されています。また、洛西バスターミナルは、西山全体の交通拠点であり、周辺地域ともネットワークでつながっています。

洛西ニュータウンのまちづくりを進めるにあたっては、これらの周辺地域との交流やネットワークづくりを含めて考える必要があります。

P5「洛西ニュータウンの5歳ごとの年齢区分別人口」

## 第4 洛西ニュータウンの目指すまちのすがた

検討会やタウンミーティングにおいては、優れた住環境や自然を守るまち、高齢者が住みやすいまち、子育て環境が優れているまち、多世代が交流できるまちを目指すという意見が出されていました。

洛西ニュータウンの住環境等に関する満足度は、まちの緑の豊かさ、山並みやまちなみの自然景観、まちのゆとりに対する評価は高くなっています。また、洛西ニュータウンのこれからのまちのすがたについても、「緑が豊かでうおいのあるまち」や「住宅を中心とした落ち着いた雰囲気のあるまち」の比率が高くなっています。このように、西山などの身近な自然や風景、まちのゆとりについては、住民の評価が極めて高く、住民がこの地に住み続ける大きな要因となっています。これは、洛西ニュータウンの大きな特徴の一つと言えます。

一方、洛西ニュータウンの人口構成においては、団塊の世代の比率が京都市平均より高く、間もなくこの層の人々が定年を迎えて一斉に地域に回帰してくることになります。団塊の世代が高齢期を迎えることは、急速な人口の高齢化をもたらしますが、それはまた多様なノウハウや知識・経験を持った、地域コミュニティを支える貴重な人材が地域に増えることにもなります。

また、すべての世代において、今後も洛西ニュータウンに住み続けることを考えている世帯の比率は高く、住み続ける理由として、経済的理由や「まちなみや自然環境に満足」という理由のほかに「住み慣れていて愛着を感じる」が高率となっており、住み心地のよさも大きな要因になっていることがうかがえます。

今後の洛西ニュータウンの将来を考えるうえでは、これらのことは極めて重要な要素です。住民の満足度が高い周辺環境やまちなみを守る一方、団塊の世代が地域社会において、これまで蓄積した知識や経験を生かし、様々な活動を展開すればまちの活力は増し、また、各世代が顔の見える交流を深めていくことで、更に住み心地はよくなっていきます。

このことが「様々な世代の人々にとって魅力的で住みたいと思うまち」の実現につながり、若い世代の流入・定着にも寄与していくこととなります。子育て世代が子どもを産み育てる場としてこのまちを選び、生活することで、地域に子どもが増え、子どもを中心としたにぎわい、コミュニティも生まれてきます。

以上から、本ビジョンにおいては、洛西ニュータウンの目指すまちのすがたを以下のように想定して、実現に向けた取組をまとめました。

### 洛西ニュータウンの目指すまちのすがた

#### 緑とゆとりを守り，各世代が支えあい心豊かに共生できるまち

洛西ニュータウンでは，美しい自然や風景，ゆとりのある緑豊かなまちを守り，育て，次世代に引き継いでいくとともに，各世代がお互いに支えあい交流しながら心豊かに共生するまちを目指します。

## 第5 洛西ニュータウンのまちづくりの目標と考えられる方策

目指すまちのすがたを実現するためには、今後、様々な取組が必要となってきます。「第3 洛西ニュータウンの特色と課題」でまちの魅力や課題をみてきましたが、本項では、まちの魅力にさらに磨きをかけ、まちの課題に対応していくに当たっての拠りどころとなるまちづくりの目標を掲げます。

また、目標に到達していくためには、行政はもちろん地域住民や事業者のそれぞれが単独で、あるいは協力し合って様々な方策を講じていく必要がありますが、ここでは、行政や地域住民、事業者等が取り組む方策としてどのようなものが考えられるかを示すこととします。

### 1 風景・まちなみ ～美しい風景や自然の豊かさを体感できるまち～

#### (1) 優れた自然や風景が身近なまち

洛西ニュータウンは、各地区から西山を望むことができ、また西山を背景とした美しいまちなみが広がっている。洛西ニュータウン及びその周辺の自然や風景は、アンケート調査やタウンミーティングでも非常に評価が高く、この美しい自然や風景を積極的に体感し、守り、将来に引き継ぐまちづくりを進める。

##### 【考えられる方策】

- 行政や地域住民、事業者の協力による、景観計画の策定などの景観施策を活用した周辺の自然環境の保全
- 地域住民や事業者、行政の協力による、自然とふれあうことのできる拠点や親水空間の整備
- 地域住民やNPO、ボランティア団体等の協力による、西山や周辺の田園及び竹林の維持活動
- 行政や地域住民の協力による、農作業を通じた住民交流等豊かな自然環境にふれる機会づくり

#### (2) 四季の表情を感じることでできる緑豊かなまち

様々な街路樹や公園等の草花に囲まれ、四季の花々、新緑、紅葉そして落葉と四季の表情を、まちなかで楽しめるまちである。

この緑豊かなまちの良さをみんなで共有し、これらを守り、よりよいものに育て、花と緑があふれるまちづくりに積極的に取り組んでいく。

##### 【考えられる方策】

- 地域住民による、花と緑の観賞会開催
- 行政や地域住民、事業者、施設等の協力による、生垣の緑化活動の取組や花と緑のグリーンベルト事業及び学校の境界部分の緑化
- 行政や地域住民の協力による、まちに緑の普及を図る「緑のボランティアリ

ーダー」の育成

- 地域住民による，四季の花や緑が楽しめる散策路のルートづくりの取組

### (3) 風景と調和した，美しくゆとりあるまちなみを守っていくまち

洛西ニュータウンは，「洛西ニュータウン景観構成の研究報告（（社）日本都市計画学会）」に基づいて計画的に建設されたまちである。各街区に統一感のあるデザインの建物が配置され，住棟は隣棟間隔や高さにゆとりを持って建てられている。また道路や公園などの公共空間も十分に確保されるなど，ゆとりあるまちなみを形成している。

この魅力あるまちなみを守り，将来に引き継ぐまちづくりを進める。

#### 【考えられる方策】

- 行政や地域住民，事業者の協力による，景観施策を活用した自然景観やまちなみの保全と創出
- 行政や地域住民，事業者の協力による，まちのゆとりや住環境を守るための新たな規制の導入
- 行政や大学等，地域住民の協力による，建物の優良なデザインを誘導するまちなみガイドラインの策定
- 行政による，良好な住環境をつくるための地域単位の自主的なルールづくり（地区計画，建築協定，景観協定）の普及と支援
- 行政による，まちなみの保全・維持に取り組むNPOやボランティア団体の活動への支援

## 2 住まい ～豊かで自立した生活をすごせる住まい～

### (1) 多様な世代・世帯が暮らせる住まい

洛西ニュータウンは，計画的に整備された住宅地であり，低層戸建て住宅やテラス住宅，中高層住宅，また分譲や賃貸住宅等様々な住宅が建設当初から整備されている。この多様な形態の住まいを活かし，若い世代から高齢世代までの様々な世代が暮らせる住まいの提供を推進する。

また，家族構成の変化や多様なライフスタイルの受け皿となる住宅など，住宅のニーズの多様化に対応する住まいの確保と住宅情報の充実を進める。

#### 【考えられる方策】

- 行政や事業者，地域住民等の協力による，若い世代等の洛西ニュータウン内での住まい探しをサポートする仕組みづくり
- 行政や事業者，地域住民等の協力による，若い世代の転入を促進するような空き家活用方策の検討
- 行政や事業者，地域住民等の協力による，駐車場の確保と整備

- 事業者や行政，地域住民の協力による，多様な世帯の入居に対応できる多様な間取りの住宅と住戸の提供と住み替えシステムの開発
- 事業者による，高速通信や地上デジタル放送の受信等高度情報化時代に対応できる住まいの基盤整備

## (2) 高齢者や障害のある方が安心して暮らせる住まい

高齢者や障害のある方が，住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには，住まいは重要な要素となるものであり，いつまでもこのまちに住み続けられるよう，住まいとまちのバリアフリー化に取り組む。

### 【考えられる方策】

- 事業者による，共同住宅での共用空間や住戸内部のバリアフリー化の推進
- 行政や地域住民，事業者による，戸建住宅のバリアフリー化に活用できる各種施策等のPR
- 行政や事業者による，公共建築物のバリアフリー化やまち全体のユニバーサルデザインの推進
- 住民や行政，事業者による，耐震改修等建築物の安全対策の強化
- 行政や事業者による，ノンステップバス導入の推進

## 3 まちの施設 ～みんなで守り育てるまち～

### (1) 多様な世代が交流する公園

公園は住民にとって安らぎの場になるものであり，多様な世代が憩いを求めて集い，自然に交流できる場でもある。このため，多世代が暮らし交流するまちにふさわしく，子どもから高齢者までが使いやすく，人々が交流できる公園のあり方をみんなで考える。

### 【考えられる方策】

- 地域住民や行政，事業者の協力による，住民参加型の公園再生プロジェクトの実施
- 地域住民や行政，事業者の協力による，公園再生アイデアの募集
- 地域住民や行政の協力による，公園を利用した交流の場づくり

### (2) みんなで守り育てる公園やみち

緑あふれる公園や緑道，道路が洛西ニュータウンの大きな魅力の一つであるが，施設の老朽化や落ち葉の処理などの課題が指摘されている。

わがまちの財産である公園や道路について，子どもから高齢者，障害のある方が安心して利用できるように，その整備と管理に努める一方，住民のできる範囲で，行政



との協働により、守り育てる取組を進める。

**【考えられる方策】**

- 地域住民や事業者、行政の協力による、まちの美化活動の推進
- 地域住民や行政の協力による、「まち美化住民協定運動」の推進
- 地域住民や行政の協力による、「公園愛護協力会」の結成による公園の自主的管理
- 地域住民や事業者、行政の協力による、公園・広場ファンクラブの結成による日常的にみんなで公園等を世話する仕組みづくり
- 行政や地域住民の協力による、大学やユースサービス協会等からプレイリーダーの派遣を得てのプレイパーク整備
- 行政や地域住民の協力による、街路樹里親制度の積極的な活用
- 地域住民による、緑道を活用した花の演出や維持管理

**(3) 環境に配慮したまちづくり**

豊かでかけがえのない環境を守り、将来に引き継いでいくため、歩いて暮らせるまちづくりの実現や、ごみ減量、リサイクルの推進、啓発活動など、環境に配慮したまちづくりへの意識を高めるとともに、自発的な担い手づくりに取り組む。

**【考えられる方策】**

- 地域住民や事業者、行政の協力による、公共交通機関の利用促進
- 地域住民や事業者、行政の協力による、ゴミの減量や資源の再利用の取組の促進
- 地域住民や事業者、行政の協力による、河川等の美化運動の促進
- 地域住民や行政の協力による、「西京塾」などを活用した自発的な環境保全活動等の人材育成

**4 生活の利便 ～便利で活気あふれるまち～**

**(1) まちの核にふさわしいタウンセンター**

洛西ニュータウンの中心部に位置するタウンセンターは、時代に対応した商業・業務機能の充実を進め、周辺地域も含めたまちの核として、にぎわいあふれる拠点としての機能の充実を図る。

**【考えられる方策】**

- 事業者や行政の協力による、タウンセンターの商業や業務機能の維持・充実
- 事業者による、洛西ケーブルビジョン（以下「RCV」という。）を活用した商業施設のPR

## (2) みんなが集うサブセンター

利用者の減少や機能の低下が指摘されているサブセンターについては、徒歩圏を中心とした居住者へのサービスを提供する商業機能を向上させるとともに、住民のコミュニティ活動の拠点としての機能強化を進め、身近で気軽に集えるサブセンターの再生に取り組む。

### 【考えられる方策】

- 事業者による、RCVを活用した商業施設のPR
- 地域住民や事業者、行政の協力による、サブセンターでのコミュニティビジネスの導入
- 地域住民による、コミュニティ施設（会館）を利用した住民交流の促進
- 地域住民や事業者による、サブセンターでの交流事業（イベント等）の開催による住民交流の促進
- 地域住民や事業者、行政の協力による、空店舗等の地域活用（高齢者の生活を支援する拠点やNPO・ボランティア等の活動拠点）
- 事業者や地域住民、行政による、コミュニティ活動を支援するための施設の使用条件の整備

## (3) 住民ニーズに対応した利用しやすい施設

高齢社会を迎え、タウンセンターやサブセンター、その他ニュータウン内にある公共的、公益的な施設について、様々な人が、より快適にアクセスできる施設となるよう取り組んでいく。

住民が気軽に利用し、住民のニーズに即した活動が展開できる施設とするため、既存施設の利用や管理方法について検討を進める。

### 【考えられる方策】

- 行政や事業者による、公共的、公益的な施設のバリアフリー化の推進
- 地域住民や事業者、行政の協力による、住民のニーズに対応した施設の活用
- 行政や地域住民の協力による、学校コミュニティプラザ事業や学校ふれあいサロンをはじめとする学校施設の積極的な活用

## (4) バランスのとれたみんなが利用しやすい公共交通

歩いて暮らせるまちづくりの実現に向け、住民の多様な活動を支え、住民の利便の向上に資する交通環境の整備を推進する。そのために、洛西ニュータウン内の公共交通の再編、広域的な交通システムの検討など、みんなが利用しやすい公共交通の充実に努める。

### 【考えられる方策】

- 地域住民や行政の協力による、事業の採算性も考慮した住民のニーズに対応

するバランスのとれたバス運行計画等の事業者への提案

- 地域住民や事業者，行政の協力による，巡回バスやコミュニティバス等まちの特性に対応したバス交通のあり方の検討
- 地域住民や事業者，行政の協力による，住民の交通モラルの向上に向けた取組
- 地域住民や事業者，行政の協力による，地下鉄東西線延伸の必要性の市民へのアピール
- 地域住民や事業者，行政の協力による，L R T等の新しい公共交通システムのあり方の検討

## 5 生活の支援 ～みんなで支え合いこころ豊かに安心してすごせるまち～

### (1) 子どもが安心安全に元気に育つまち

子どもは次世代の洛西ニュータウンを担う「まちの宝」である。自然が豊かな洛西ニュータウンの子育て環境は居住者から高い評価を得ているが，一方で子どもを取り巻くまちの安全面の不安が大きくなっている。このため，地域の子どもの見守り活動を強化し，「子どもが安心して遊び，元気に育つまち」を目指す取組を展開する。

#### 【考えられる方策】

- 地域住民や事業者，行政等の協力による，子どもを安心して育てられる医療環境，自然環境づくり
- 地域住民による，子どもへの声かけ・あいさつ運動の展開や子どもと地域住民とのふれあいの場づくりの促進
- 地域住民や事業者，行政，学校等による，子どもが安心して暮らせるまちの安全対策の強化
- 家庭やP T A，地域住民，保育所・学校等，子どもに関わる関係機関，行政，警察等の協力による，子どもの安心安全を守り，子どもを健やかに育てるための連携の強化
- 地域住民や事業者，行政，学校の協力による，地域の安心安全ネットワークづくりの推進

### (2) 子育てを地域で支えるまち

少子化や核家族化から育児不安等を抱える世帯が増加している。地域で安心して子どもを産み育てられるよう子育て支援サービスの充実や，地域で子育てを応援する体制づくりに取り組んでいく。

#### 【考えられる方策】

- 行政や事業者の協力による，保育サービス（昼間保育，一時保育，延長保育，

病後児保育)の充実

- 行政や事業者の協力による、学童サービス(児童館・学童クラブ事業)の充実
- 行政や事業者、地域住民の協力による、児童館における母親クラブの活動の充実
- 行政や事業者、地域住民の協力による、子育て支援のボランティア活動や子育てサロン・サークルの育成
- 行政や事業者、地域住民の協力による、ファミリーサポート事業の推進
- 行政や事業者の協力による、子育てサロン等子育て支援サービスの実施場所としての空き家や集会所等の活用
- 行政や事業者による、子どもの保健や子育てに関する相談体制の充実
- 行政や事業者の協力による、子育て家庭が子育ての悩みを相談できる環境づくり

### (3) 高齢者や障害のある方の生活を支えるまち

洛西ニュータウンは、今後急速に高齢化が進行していくことが予想され、高齢者や障害のある方等すべての人が安心して、自立した生活ができる持続可能なまちづくりが必要な時期を迎えている。

生活上の支援が必要な人や世帯の多様なニーズに対応するため、公的な福祉サービスの充実を図るとともに、社会福祉協議会や民生児童委員会、老人クラブなどと連携しながら、住民が主体となって地域で支えあう福祉活動を推進していく。

また、多くの高齢者はまだまだ体力や気力もあり、社会とのかかわりを望む人も多く存在することから、高齢者が地域社会に積極的に参加できる仕組みづくりにも取り組んでいく。

#### 【考えられる方策】

- 行政や事業者の協力による、高齢者福祉サービスや障害者福祉サービスの充実と情報提供の推進
- 行政や事業者、地域住民の協力による、自立した生活が難しい高齢者を支援する地域包括支援センターを核としたネットワークづくりの推進
- 地域住民や事業者、行政の協力による、障害種別や年齢を超えて障害児者の地域生活を推進するためのネットワークづくりの推進
- 行政や事業者、地域住民の協力による、老人クラブの友愛訪問等一人暮らし高齢者の孤立化を防ぐ対策の強化
- 地域住民や事業者、行政の協力による、地域での自主的な福祉活動の推進
- 地域住民や学校、行政の協力による、健康すこやか学級のような地域福祉活動の場としての学校活用

- 行政や事業者，地域住民の協力による，様々な機会を利用した高齢者や障害のある方等の社会参加を促す雰囲気づくりや啓発活動
- 地域住民や事業者，行政の協力による，サブセンターの空店舗等を活用した高齢者や障害のある方等の憩いの場づくり
- 行政や事業者，地域住民の協力による，「ひと・まち交流館」の高齢者サークル情報提供システムの活用等による高齢者のボランティアやサークルへの参加促進
- 行政や地域住民による，まちの活性化につながる起業を行なおうとする高齢者への「はつらつ高齢者まちづくり支援事業」の活用等による支援
- 事業者や行政の協力による，地域の福祉活動のリーダーの育成

#### (4) みんなで支える安心安全のまち

安心して暮らせる洛西のまちを目指して，住民が共に助け合い，信頼できる関係づくりと，住民と行政の連携による防災・防犯活動の取組を進める。

##### 【考えられる方策】

- 地域住民による，「門灯をつけ，まちを明るくする運動」，地域パトロール，防災活動の推進
- 地域住民や行政の協力による，まちの安全マップづくりと広報活動の推進
- 地域住民や事業者，行政の協力による，まちの防犯機能の充実
- 地域住民や事業者，行政，学校の協力による，地域の安心安全ネットワークづくりの推進
- 地域住民や事業者，行政の協力による，RCVを活用したまちの安心安全対策

#### (5) 自治会活動やコミュニティ活動が活発なまち

近所づきあいの希薄化，新しい居住者との交流不足，地域活動があまり活発でない地区や自治会等が未組織な地区の存在などが課題となっている。

近所間の交流の機会を増やし，地域活動に参加する気運を高める取組の推進により，住民のまちへの愛着やコミュニティへの理解を深め，まち全体のコミュニティの活性化を進める。そのためにも，最も身近で基礎的な地域コミュニティであり，地域の親睦や地域課題の解決に重要な役割を果たしている自治会への関心を高め，積極的に関わりをもつ人が増えるように，自治会活動の活性化に向けた取組を進めていく。

##### 【考えられる方策】

- 地域住民による，自治会活動への住民の参加促進や自治会活動に参加した住民の交流促進
- 地域住民による，住民参加を促す魅力ある自治会活動の検討

- 地域住民や事業者による，自治会活動の意義と役割の積極的なPR並びに新規入居者に対する自治会参加の呼びかけの取組
- 事業者や行政による，情報提供等の自治会活動の支援

## 6 交流 ～元気に交流し魅力を発信するまち～

### (1) 多様な市民活動が広がり，交流するまち

現在も，自治連合会等の地域活動団体，NPOなど，多くの団体が様々なテーマの活動を行っている。活動団体同士の相互交流を図ることにより，活動をアピールし，人の輪を拡げ，取組の多様化や充実が進むよう取り組んでいく。

また，地域のメディアであり，洛西ニュータウンの情報発信の拠点であるRCVの更なる活用を検討していく。

さらに，洛西ニュータウンの周辺には，京都市立芸術大学や京都経済短期大学，京都大学桂キャンパス，国際日本文化研究センター，桂イノベーションパーク等数多くの大学や研究機関が存在する。大学やその周辺に住む学生等が，地域の一員として，洛西ニュータウンを対象とした研究を行い，研究成果を地域に還元することで，地域に根ざした大学をアピールするとともに，地域との連携を地域の魅力向上と活性化につなげる。これらの多様で活発な交流が，今後のまちづくりを盛り上げる礎になっていくものと考えている。

#### 【考えられる方策】

- 地域住民や事業者，行政の協力による，サブセンターの空店舗を活用した市民活動の拠点づくりや地域まちづくり活動拠点「暮らしの工房」づくりへの支援
- 地域住民や行政の協力による，「西京塾」などを活用した市民活動に参加する人材の育成と活動への支援
- 地域住民や事業者，行政，大学等の協力による，「西京まち・ひと・情報データバンク」の内容の充実や交流を促進するイベント開催等
- 地域住民や事業者，行政，大学等の協力による，洛西ニュータウンを題材にした学生からのまちづくり提案募集や共同の研究，イベント開催等地域と大学の相互交流を促進する取組
- 行政による，大学地域連携事業等大学と地域住民が連携する事業への支援
- 事業者や行政による，まちづくり活動支援事業等まちづくり活動を支援する事業の実施
- 地域住民や事業者，行政の協力による，RCVを活用した市民活動情報のより効果的な提供
- 行政や事業者，地域住民の協力による，西京区の活動団体・グループ等を集

めて開催している交流イベントの拡大と充実

## (2) 多様な世代を惹きつけるまちづくりが広がるまち

「多様な世代の交流するまち」の実現に向け、現在の居住者のまちへの愛着を高めるとともに、他の地域から多様な世代、特に若い世代がまちを訪れ、住みたいと思えるよう、まちの魅力を高め、まちの情報を発信する取組を推進していく。

### 【考えられる方策】

- 行政や地域住民、事業者の協力による、インターネット等を活用した若い世代へのまちの魅力の発信
- 地域住民や事業者、行政の協力による、洛西まちづくり情報誌の発行やまちを紹介するマップの作成
- 地域住民や事業者、行政の協力による、洛西さくらまつりなど地域に親しまれ、また地域外にも発信力のあるイベントの継続開催
- 地域住民や事業者、行政の協力による、まちの宝を学び親しむイベントや竹をテーマにしたイベント等の開催によるまちの魅力の発信

## (3) 地域や世代を超えた交流が広がるまち

多様な世代の交流を進めるとともに、地域の将来を担う子どもが、地域で様々な交流を通じ、健やかに育つ環境づくりを進める。

また、洛西ニュータウンを取り巻く周辺地域と連携して、ネットワークづくりを進める。さらに、まちの魅力を高めるためにも、洛西ニュータウンと周辺地域との垣根を取り払った交流に取り組んでいく。

### 【考えられる方策】

- 地域住民や学校、事業者、行政の協力による、空教室や空店舗を活用した世代間交流の場づくりの推進
- 地域住民や学校、行政の協力による、異なる世代が交流し、活動の輪を広げることを目的としたイベントの開催
- 地域住民や行政の協力による、大枝・大原野地域等との協働行事の開催等周辺地域との交流を深める取組

## 第6 まちづくりビジョンの推進に向けて

洛西ニュータウンで急速に進展する少子化・高齢化やこれに伴うコミュニティの希薄化は、様々なところに影響を及ぼす喫緊の課題ですが、第4で掲げた『緑とゆとりを守り、各世代が支えあい心豊かに共生できるまち』を実現することは、住民にとって更に住み心地のよいまちになる一方で、若い世代の定着や転入者の増加につながってきます。

ここでは、「緑とゆとりの保全」や「世代間の支え合いと共生」を先導し、少子化・高齢化やコミュニティの希薄化の対応にも結びつく4つの戦略と当面の取組内容を掲げます。

また、地域で活動する団体や住民の相互協力のネットワークを構築するとともに、このネットワークを活かし、ビジョンに掲げるまちづくりのあり方やそのための方策を考え、それを推進する体制を掲げます。

### 【4つの戦略】

【戦略1】美しくゆとりあるまちなみを育て、次世代へ継承するための取組  
～ 自然環境の保全と美しいまちなみづくり～

【戦略2】洛西のまち全体で子育てを支える取組  
～ 子どもを育てる地域環境づくり～

【戦略3】熟年世代が洛西のまちで力を発揮する活動を広げる取組  
～ 熟年世代の活躍できる地域づくり～

【戦略4】洛西のまちで誰もが快適に暮らせる環境づくりの取組  
～ 身近な地域拠点と交通環境づくり～



### 【ビジョンの推進体制】

まちづくりビジョンの着実な推進に向けて、

- (1) 地域で活動する住民やグループの交流の場を設けることなどにより、相互協力のネットワークづくりに取り組む。
- (2) 地域や事業者、行政などが連携しながら進めるべき取組について、進め方をリードしていくまちづくり推進組織として「洛西ニュータウンまちづくり協議会(仮称)」を立ち上げ、4つの戦略の観点を踏まえた優先順位、取組の担い手や手法、スケジュールなどを協議する。
- (3) ビジョンに関する取組などについて、「まちづくりニュース(仮称)」の発行や「報告会」によって広く地域住民に知らせ、地域とともにあるまちづくりを進める。



## 1 4つの戦略の推進

ここでは、4つの戦略と、推進体制の構築までに様々な主体が先行して取り組むべき、「当面の取組内容」を掲げる。

### 【戦略1】美しくゆとりあるまちなみを育て、次世代へ継承するための取組 ～自然環境の保全と美しいまちなみづくり～

洛西ニュータウンのまちなみも今や住民意識の中にしっかりと定着している。まちなみやまちのゆとり、自然環境に対する住民の評価は極めて高く、地域文化の一つとして愛着のある他に代えがたいものになっており、住民がこの地を選び、この地に住み続ける大きな要因の一つになっている。そして、このまちなみや自然環境は、洛西ニュータウンがどこにでもあるようなまちではなく、他にはないまちの強みとして、まちの住民以外の人々にとっても魅力的に映るものであり、今後洛西ニュータウンに人を誘引するために、不可欠な要素である。

このため、多様な世代の居住の促進を前提に、これからも洛西ニュータウンが周辺の景観と調和したゆとりあるまちを守り、次世代に引き継いでいけるよう、必要なルールの見直しを進めるとともに、住民の様々なまちづくり活動を推進する。

#### ◆当面の取組内容

- ① **ダウンゾーニング（高さ制限や容積率の見直し）の実施**
- ② **形態・意匠や色彩等の基準の明確化**
- ③ **地区計画や建築協定、景観協定等の拡大のための制度の周知及び支援**

### 【戦略2】洛西のまち全体で子育てを支える取組 ～子どもを育てる地域環境づくり～

洛西ニュータウンが、様々な世代が共生するバランスの取れた地域社会を維持していくためには、若い世代が洛西ニュータウンに住み続け、また、まちの外からも転入してもらう必要がある。そのためには、子育ての場として魅力を高める必要があり、子どもを安心して産むことができ、健全な子どもに育てることができる環境を地域全体でつくっていかなければならない。

このため、子育て世代のニーズを把握し、住民、事業者及び行政がそれぞれの役割を果たしながら、相互に連携した様々な取組を展開する中で、子どもを育てる場にふさわしい地域環境を整える

◆当面の取組内容

- ①公的住宅管理者による地域住民を対象とした子育てサロンの実施
- ②地域の安心安全ネットワーク形成事業の展開
- ③地域で子育てを支援するファミリーサポート事業の拡大

【戦略3】 熟年世代が洛西のまちで力を発揮する活動を広げる取組  
～ 熟年世代が活躍できる地域づくり～

ニュータウンでは短期間に同じ世代の方々が多数入居するという特徴がある。洛西ニュータウンでも、入居から30年が経過し、定年を迎えて地域で過ごす初期入居者が急速に増えつつあり、そのような中で、団塊の世代がまもなく定年を迎えることになる。

これらの方々は、地域のコミュニティを支える貴重な人材であり、様々なノウハウや知識、経験を活かして地域社会で力を発揮できれば、まちの活性化や他の地域にはないまちの魅力に結びついていく。このため、この世代の方々の地域社会への参加促進や、自主的、主体的な活動への支援により、熟年世代が活躍できる地域づくりを進める。

◆当面の取組内容

- ①住民活動団体等の活動を支援するための情報提供事業の実施
- ②住民活動団体の交流の場の設置

【戦略4】 洛西のまちで誰もが快適に暮らせる環境づくりの取組  
～ 身近な地域拠点と交通環境づくり～

住民の生活を支える身近な存在であるサブセンターは、住区の中心にある、身近な商業などの便利施設が集まる拠点であると同時に住民が集い、語らい、活動できる場として利用し、賑わいを創出していく必要がある。また、サブセンターの機能充実は、住民の生活環境の向上に止まらず、居住先を探している洛西ニュータウン以外の人々にとっても魅力的に映るものである。

このため、サブセンターのあり方について住民が自ら考え、育てていくという視点で、商業の活性化に向けた住民の支援や、コミュニティ活動の場、生涯学習の場、ボランティア活動の拠点としてのサブセンター利用を促進する。

また、サブセンターと同様に、身近な住民の足であるバス交通についても、その利便性向上はまちの魅力アップにつながるものであり、地域全体のバランスや採算性を考えながら、その改善を図る中で住民にとってより身近で便利な交通環境をつくっていく。

◆当面の取組内容

- ①各サブセンターの会館の利用促進
- ②サブセンターのコミュニティ機能の向上

## 2 ビジョンの推進体制

「洛西ニュータウンが目指すまちのすがた」を実現していくため、まちづくりの目標や考えられる方策、戦略的に取り組む内容を「洛西まちづくりビジョン」としてまとめました。

今後、このビジョンを実行に移していくためには、まず、その内容を多くの住民に広く周知し、まち全体の認識とすることが大切です。そのうえで、まちづくりを推進していく仕組みづくりとして、次のような取組を掲げます。

### (1) 活動のネットワークづくり

まちづくりビジョンの実現に向けて、地域で活動する自治連合会や各種団体、NPO、行政、事業者等が相互に情報を交換し、目的意識を共有しながら、それぞれに、また相互に協力・補完し合いながら様々な取組を進めていけるよう、関係団体や機関等による相互協力のネットワークづくりに取り組んでいく。

今後の取組としては、「まちづくりニュース（仮称）」において、様々な地域活動の紹介を行う一方、地域で活動する住民、グループに参加を広く呼びかけ、活動状況等の発表や情報交換が行える交流の場を設けるなどにより、地域の相互協力のネットワークの輪を広げていく。

### (2) ビジョン推進のための体制づくりと活動支援

また、まちづくりビジョンを具体的に実現するために、取組内容や進め方をリードするまちづくり推進体制として、「洛西ニュータウンまちづくり協議会（仮称）」を立ち上げる。

この推進体制の構成メンバーとしては、洛西ニュータウン4学区・地域の自治連合会、ラクセーヌ商店会、洛西ケーブルビジョン株式会社、洛西ニュータウン管理公社、洛西支所などが中心となることが考えられるが、この体制については、今後、地域の実情にあった、ビジョンの推進によりふさわしい仕組みを地域で検討し、構築することとなる。

この体制を構築することにより、まちづくりの関係者が、まちづくりビジョンの実現について協議することからスタートし、ビジョンに掲げるまちづくりの様々なテーマのうち、地域や事業者、行政などが連携しながら進めるべき取組について、4つの戦略の観点を踏まえた取組の優先順位、担い手、手法、スケジュールなどを検討し、調整を行う。更に、関係団体や機関等によるネットワークを活かしながら実行に移し、多様な取組を進めていける体制づくりに取り組んでいくこととし、将来的には、地域住民主体の体制として発展させていくことが必要である。

さらに、多様な取組を進めていくためには、活動を支える人材や活動のノウハウ、活

動の場所等の課題が生じてくる場合があり、これらの課題解決に向けて、有益な情報や場所の提供等をはじめとする支援のシステムについても検討していく。

### **(3) 地域とともにあるまちづくりの推進**

今後、これらの体制によってまちづくりを推進していくことになるが、引き続き地域全体を視野に入れたまちづくりを進めていく必要がある。

このため、住民に対し、まちづくりを進める方向や取組状況等まちづくりに関する情報発信を行うことが、体制の重要な役割であり、「まちづくりニュース（仮称）」の発行や取組の報告会を実施することにより、広く住民への周知を図るとともに、その意向を反映させる仕組みを確保していく。

## おわりに

今回策定したまちづくりビジョンは、入居から30年が経過した現在、これまでの洛西ニュータウンのまちの魅力を守り、さらに高め、顕在化しつつある課題について対応するための方向性を示したものです。

ビジョン策定にあたっては、8回に亘る「洛西ニュータウンまちづくり検討会」での調査、検討はもとより、5回のタウンミーティングや、アンケート調査、各種ヒアリングを実施するなど、住民参加で議論を行い、意見を集めることを重視してきました。

今後、ビジョンの実現に向けてまちづくりを推進していくこととなりますが、引き続き地域住民や事業者等地域全体を巻き込んだ展開が必要であり、まちづくりに関連する団体に属していない住民にも、まちづくりを進める方向や取組状況等の情報を発信し、意見を反映させる仕組みを考える必要があります。

一方、まちを取り巻く社会経済状況は刻々と変化していくとともに、まちに住む人の価値観やライフスタイルも多様化していくなど、住民の意識も決して固定されたものではありません。このような変化に対応して、まちの将来を不断に考えることは極めて重要なことであり、住民一人一人が、まちの将来を自身の課題として考え、議論し、あるべきまちのすがたを目指し、行動していくことが求められています。

今回のまちづくりビジョンの策定はまちの将来を考える第一ステップであり、このビジョンを広く住民に周知するとともに、今後も継続して住民参加の下で、議論を重ねていくこととします。

**「洛西ニュータウンまちづくり検討会」委員名簿(敬称略)**

	役職等	氏名
学識経験者	関西学院大学総合政策学部教授	角野 幸博
	(座長) 京都大学大学院工学研究科教授	高田 光雄
	京都市立芸術大学美術学部助教授	藤本 英子
	京都経済短期大学経営情報学科助教授	藤原 隆信
地域住民 及び事業者 (右記の団 体から選 任された もの)	新林学区自治連合会	勝本 竹彦
	境谷学区自治連合会	山田 隆義
	竹の里地域自治連合会	杉浦 秀好(第5回から) 中尾 信威(第4回まで)
	福西学区自治連合会	井上 愛子
	洛西ケーブルビジョン株式会社	藤本 廣志
	ラクセーナ商店会	平井 義昌
関係機関及 び行政	京都府土木建築部住宅課長	公庄 正夫
	独立行政法人都市再生機構住まいサポート業務部 保全企画チーム チームリーダー	中井 義正
	財団法人京都市景観・まちづくりセンター次長	奥 美里
	財団法人洛西ニュータウン管理公社事務長	浅野 保夫(第5回から) 西田 武志(第4回まで)
	京都市西京区役所洛西支所長	吉永 充徳
	京都市都市計画局都市企画部長	田辺 真人
	京都市都市計画局都市企画部担当部長	林 幹夫
	京都市都市計画局都市景観部長	福島 貞道
京都市都市計画局住宅室部長	桐澤 孝男(第5回から) 小池 泰夫(第4回まで)	

**「タウンミーティング企画委員会」委員・アドバイザー名簿(敬称略)**

委員	芦田 康弘	斎藤 信男	鈴木 綾	玉井 敏夫
	塚本 重次	戸田 裕康	西出 功	野村 喬弥
	林 洋子	万殿 昭子	森田 佳子	山崎 治男
	山本彩洋子			

アドバイザー 藤原 隆信 (京都経済短期大学経営情報学科助教授)  
安枝 英俊 (京都大学大学院工学研究科助手)

〔洛西ニュータウンまちづくり検討会の議論の経過〕

	日 時	内 容
第1回	平成17年8月25日(木) 午後3時～午後5時	(1) 洛西ニュータウンの成り立ちと現状について (2) 今後の検討会の進め方について
第2回	平成17年10月3日(月) 午前9時30分～正午	(1) 第1回検討会及び学区ヒアリング(中間報告)の意見整理について (2) 他のニュータウンの事例について ～明石舞子団地の再生について～ (3) 今後実施するアンケート及び現況調査について (4) タウンミーティングの進め方について
第3回	平成18年1月24日(火) 午前9時30分～正午	(1) アンケート結果の中間報告について (2) 現況調査等の報告について (3) 検討会及びタウンミーティング等の今後の進め方について (4) その他
第4回	平成18年3月22日(水) 午前9時30分～正午	(1) アンケート結果の報告について (2) タウンミーティングの報告について (3) まちづくりテーマ案及びまちの将来像について (4) まちづくり検討会・タウンミーティングの進め方について (5) 「時を超え光り輝く京都の景観づくり審議会」中間取りまとめ案の報告について (6) その他
第5回	平成18年5月30日(火) 午前9時30分～正午	(1) まちづくり検討会・タウンミーティングの進め方について (2) 洛西ニュータウンの将来像と「まちづくりビジョン(素案)」について (3) 次回のタウンミーティングについて (4) その他
第6回	平成18年7月24日(月) 午後1時30分～4時	(1) 前回のタウンミーティングの報告について (2) 「洛西ニュータウンまちづくりビジョン(案)」について (3) 「洛西ニュータウンまちづくりビジョン(案)」のパブリックコメントについて (4) 次回のタウンミーティングについて (5) その他
第7回	平成18年9月19日(火) 午前9時30分～正午	(1) 前回のタウンミーティングの開催結果について (2) 「洛西ニュータウンまちづくりビジョン(案)」に対する意見募集結果について (3) 「洛西ニュータウンまちづくりビジョン(案)」について (4) まちづくりビジョンを受けた当面の取組について (5) その他
第8回	平成18年11月6日(月) 午前10時～正午	(1) 「洛西ニュータウンまちづくりビジョン(案)」について (2) その他

〔洛西ニュータウンミーティングの議論の経過〕

	日 時	内 容
第1回	洛西まち探検 平成17年12月10日(土)	参加者約50名で、4つのルートに分かれ、「まちの案内人」の先導のもと、まちを歩き、洛西ニュータウンの魅力や気になるところをまとめました。
第2回	洛西まち語り 平成18年2月5日(日)	参加者約60名で、洛西ニュータウンの開発当時のお話を聞いたり、5つのグループに分かれ、まちの暮らしの中で、残したいことやそれらに対する提案を考えました。
第3回	新・洛西まち物語 平成18年3月5日(日)	参加者約60名で、洛西ニュータウンで活躍されている方々の活動についてお話を聞いた後、4つのグループに分かれ、将来の洛西ニュータウンの暮らしやまちの姿を語り合い、「新・洛西まち物語」をつくりました。
第4回	洛西まちづくりビジョンを考える 平成18年6月18日(日)	参加者約50名で、「洛西まちづくりビジョン(素案)」や地域の住環境を守るための取組等についてのお話を聞いた後、4つのグループに分かれ、洛西ニュータウンの将来像を実現するための取組を考えました。
第5回	洛西ニュータウンまちづくりフォーラム 平成18年8月12日(土)	参加者約100名で、「洛西まちづくりビジョン(案)」を地域住民の方々に発表し、広く周知を図り、その意見を集めることでさらに深めるとともに、ビジョンを実現するに当たり、地域で活躍されている方々からこれまでの経験や取組の中でヒントになること等をリレートークで発表、提案していただきました。